Johnson
&
Goldsmith
Essays by
Macaulay

T. B.

Sir [illegible]

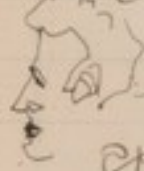
The Kirosaki
High School
C. I. I.
S. Gershuni

Trade mark

Trade mark

GOLD EAGLE
TRADE MARK
SPECIAL MADE
FOR ENGLAND

Johnson Macaulay.

私自身はすいしやうされたる二篇の論文、
閣下の和なれるものがといふことワールドの
好事から聞いた。
かかる名誉はいかに[illegible]これを受けてきか
いかに言葉にて謝するわからぬ程な
好意であるのだ。
人から好意を頼まれるものになれて居ないので
[illegible]なる奨励を受けて始めて閣下
御好意に甘えてへ好問した[illegible]
世の他の人々の如くに閣下の辞令の

会をみするの力に圧服せられたのであつた。
そこでいれは世界の征服者の征服
者たることを自ら[illegible]なすることがcannot
即ち世[illegible]か[illegible]争ふて穫やうとしてる

雰囲を乃又[illegible]んで欲するの念を禁ずる
ことがcannot 所が乃しかうするが
[illegible]笑欣されなかつたもの為に自負心も
けんそんの念もしかうを続けること
が出来ぬやうになつた。
私は当つて閣下にしゆい書を[illegible]
[illegible]る時私は私にならはざる
ひつこみ勝ちな事者がいるつことの
出来る有つたけの力をつくして閣下の
意を[illegible]かてやうこして。

私はなし終るかぎりをなし
置した。付入も そのなし終るかぎる
置いたことが 利用 にせられる
ことをよろこぶ ~~[illegible]~~ ものがない
それが 微小なるものであらうとも

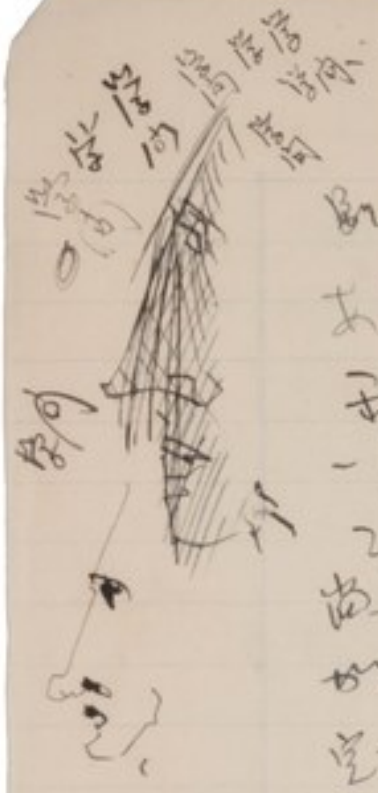
外相室を待ちうけ
はねつけられてから もう今に至る
七年 経過
その間私 歩更 ぐちをこぼすも無用の
にしたのかんなんを 疲れ私の事を
着る 進 行してきたのだ そして
~~[illegible]~~
一回のホジョ 一ぞ 七うれいもなし
一天の恩賜も受けで 出陣の間ぎまで
こぎつけたのだ。
かやうな次第で かやうな
な過は 反 中や 記は 強記しなかった。
~~私の おくまで~~

S. Gauchima S. Gauchima S. Gauchima S. Gauchima
S. Gauchima S. Gauchima S. Gauchima S. Gauchima
S. Gauchima S. Gauchima S. Gauchima S. Gauchima

Sg.

Love.

~~[illegible]~~
[illegible]を岩上に生れた人だと知った。
恩人なるものはこういうものでないか人が水中でもがき苦しんで居るのをむとん着を持って見て居る。
陸に達した時助力をこんてわずらはしものではないか。
私の事業のについて~~[illegible]~~ 行少し早かった
恩厳用
[illegible]下與へられたる
なら親切なるものであったから。
所が私が恩厳を受けても受けなくてもつらしやうを感じない。たとへ受けても
[illegible]ことが出来ぬことがなる迄
ことにしの明となって そして それを
與へることが出来ぬ迄 又 せん
[illegible]を知られて居る 恩厳を必要とせぬ迄
いうよせられたりで
であるから行事のべんぎを感じたと ~~[illegible]~~
~~[illegible]~~ 自由しないとて
又天が原をして猶かでなさしめたる
事柄を恩人に大いにもするものと世人考へることは私がもうまいからとて



思ふ

木幼奥く

既にあまり皮肉的ないぢくねたことが
あるまいと私は思ふ。
私の事業を学問の保護者から
一あまりお僕をかうむらずに
これまで事業を進行してきたから
尚一層少い恩義（この上の少い恩ぎ
がありうるとすれば）を以て事業を
完了しても敢て失望することはないだ。
私はかつて非常な事をなつてみづから
ほこりたるさぼうのゆめからさめてすでに
久しいものであつた。
いやしい 経験な
21 場合二線 公平 ジョンソンをあつかつた。
公平以上 2

~~十分にあつかつた。~~
どんなすぐれへん者でも 社会
世人に通 られるといふ満足 社
冷静に にるのも当然なこと
だ。

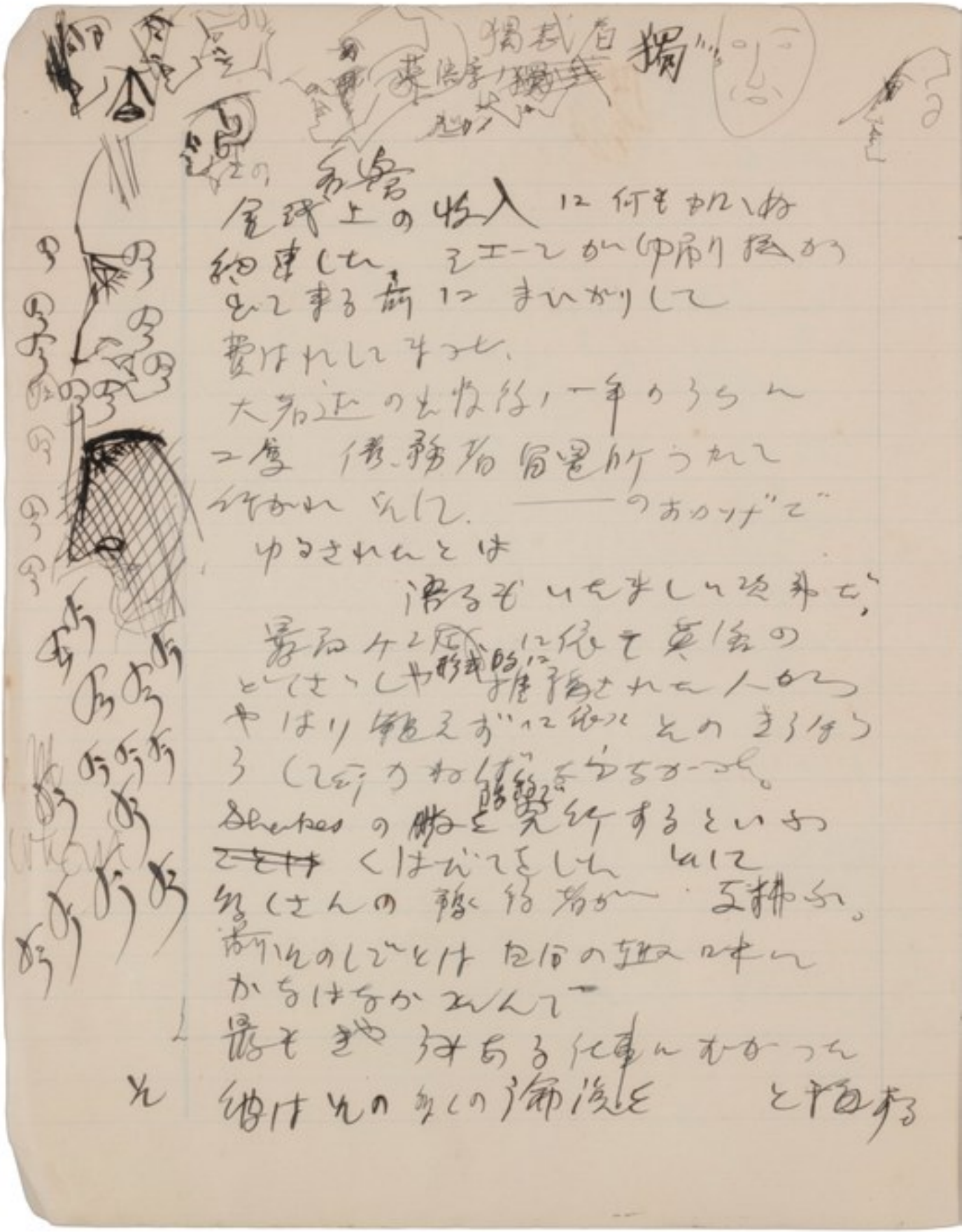
~~いかな~~

わきたいしたことのないやうな熱狂をおて
心へうた

実に その字書は 愉快によめる始めての
字書
引用された　　誓たくされ

大なる缺点に帰着する

みちめな 語源学者であつて
ほとんど 知らなかつた。
彼の書いた事所で 見れば
彼の書いた事 自じ
全然 がよれる者だつた。



この 名誉
金銭上の収入に何も加へぬ
約束した。そエーンが仲間様が
出て来る前にまいがりして
費はれしてまった。
大若辺の出役後ノ一年からちに
二度 債務者 官署所うれて
行かれ 先に ――のおかげで
ゆるされたとは
滑るもいたましい次第だ。
最高ケン[illegible]に依て英語の
どくさいしや形式的に推論された人から
やはり軽えずに依てそのきらなら
うして行かねばならなかった。
Shakes の脚を[illegible]完行するといふ
~~[illegible]~~ くはだてをした 以て
多くさんの 豫約者が 支拂ふ。
前にそのしごとは 自分の趣味に
かなはなかみんで
最もきや うみある仕事にむかった
そ 彼はその多くの論説を と預する

[redacted]

特異した。
彼の書いた特異のうちではあまりさいみ
のあるものはほとんど思いこかし
れのうちに推理上洞刺的の
傑作である書いたうちで一番すぐれた
ものである。ドニーの前方の批評が
れのうちにあるべき。
一七九 春に一と題する論説の連続ものを
第一の性公にした。
・度く
実さい まだもとのまいである間に
ぴうぴうしくもへうせつせられたものだ。
集められた
られば一の後うんといらっことが出来る。
ただ前篇よりはやや法をやりやわ
力が弱い。

しきりに
アイドラーを書いてる間に
九十才を越えてる
彼のわかかの収入のうちから
彼のかかさず彼にしをくりして
学養をつくしたのであった。
サ　費用を支拂はふ。
彼はたった一円同で小さな
書物を書いた。
隠みなくしもせずに印刷屋
に送った。
その　収穫に支拂った。
その買物に　喜んだのも道理で
あった。というのはRasselas
であったから。

ラセラスの
ような感傷的な婦人はこのボリ小辺回子庫
からの新しい書物といふことは
著者の好きな問題　についての
即ち人の望みのはかなさいか

始どその論説にすぎぬものだと
いふことを究見していたく失望し
たにちがひない。

又いろいろ婦人は
美中の人がない といふこと
知っていたく失望したにちがひない。

その中のかたがりは
彼等をとり上げた Hero Heroine を
面白き始めたと所に つれ
もどした といふことを知って失望
したにちがひない

その子体は 熱心なる論争の
まとになった
ちがった眼をとって
その若者を近しい修学者と
手直した。
ふしぎ ころづんを用ふることの
出来る所に tere ころづんを用ふ

名詞と名詞つり合はせ
形容詞と——つり合せ

ることを決してしなかった。
又 暗えをそのほ所ん強を治さ
しむることを出来ない
それにも考らず熱心な
外の連中は貴らしい意味
がさかさに発表せられ
いかにも見事に説明
せられて居るやうな多くの学者を
よろこんでいんしゃらしてる

そして非難且つしゃらさん
受けべきものだ

ろもクラスの投機といふ
ことについては批評家は
言はなかった。
その 欲点は酷評をまねくらし
かった。
ジョンソン 折々 時と場所を
をゆるがせにして居るといふ
ことについて又一つの口氏にその
他の時代の風俗に思想
轉用する

ニュクスペアー
絵し — ぴもジュンゾ~~は~~ ~~とりから~~ ひどく
犯はして居らね
これらの者は一人世紀のアビエア
人のつりがあるらしい。そしてハピイ
バレーに住んでる人たちはけっこうリッパ
ですらも受け入れられなかったやうな
引力の法則の法則を誇ら
しくせないやうに落って居る
所が実さいのアビエアの道中は
如何なるものだったかといることは
知ることが出来ゃう。
ジュンソンは固さたない解ばん人
性問をむさぼりをる。
雄雄なてつ家者に足れずとせずして
レンバックス夫人やセルダムに夫人
さたない一切はん人を
受へることを陥立しないで
夫人の全家ていえしきを
エヂプトに行して居る。

Jaco

Jacob 与

要書の日 ― 大多数の日
婦人が見られないづけつこんす
る日 吾が家せつふ、ままひ
しつとの状態を取り入れて居る。
又ゆりこんの自由の日に形て
としてこの人来ぬちぎりとしてのべられ
て居る 微笑でくあしわざと
こ 青年少女はめくばせを
かはし 接さつを
霧見合ふ、ゆこんの手帳
俺しロンドンではえうだろう
今でもえうかもしれない。
俺等はえうでない、
不適当な
かやうち色んな
ことを
ヘリターをアリストールを
引用せめ
ボルヘーのせんたくの
あらかして居るやうな詩人

ゆうれへーの
大うらんか
時代に帰えた
者とROMANOを
表はしてる。

与 ② 魔 やくよけ 悪よけ

諸難 ゴ 魔物魔除け

を外部する地方のことなく

上述の如き
が物語努力にやった
ジョンソンは生活して来た
この四年に這個に大変化が
起った。
王朝の前であった
彼のジャンパイトはおかかの
ほんとどからうさまに 著作に
書いたんだ
大きな丹青をこらした 拝者の
うちですら彼はゆみとけんだん
この不思な物のぼうてきびして
悔じゆく的な酷評を押入
したのである。又 ホイツラ、[illegible]
役[illegible]とも得意に財源としてたのみ
にしてある所の口座税を
憎むべき租税とかいた。
又彼は口座税の要質を
やびなる言葉にしばとうして
るものだから本気に答気じゃう
と思ふ

ふる 為
ぎ
る
renegade

又 彼ハ ―― トイフ 百姓
郎中トシテ 当 雷官ノ 名 によってかかげられた
やりつとさぎられた。
ごとごとのいる家を彼を
口家は 自然に 近ハ 平 宮と 定義
主人の 命に ふくする 為に ほう 主に
よって 雇はれたる口家のどれに。
だから こう ゆう 定義を下す 本人
自身は やらそうもないやうに 見える。
猶し 驚 意の 時代だ。
ビコーズ 三代 が
多くの あり えをつかし 又
ビコーズ 宮殿を なつけた。
ロンドンの 門は はんこう 時になり
ケンガリツヂは
多の人 たちは 不平をもらす
主なる者 しきりに 兄弟を
はげまうとして 居た
口庫の 支 納者は ロードビルに
主義に 対して ビコーズ ――
に対して 主義を さしはさむ

答だった。
僕と君と考へられたかつて居た。
そしてジョンソンは一人であり
びんぼうなる人で
日日ポントの年金がていきやされ

このれまでとはジョンソンの生活法に変化をました。始めてしばや
一日の食事の為に多く~~[illegible]~~
明　を
よぎなくせられることはなかった。
彼は
小僧　を恐れることなし
て[illegible]のたいだをほしいまいにする
ここで時迄ねて居りとして
又朝日得逢人と話をする
に自由に出来る身の上となった。
君の都合しごとをついから
すべくけんかくしてあったのだ。

彼は彼の 印手
多かくの よゆく金を受けとつたの
であつた。 幾何の間 よゆく金
でくらして居た
彼は そのけんやくの
印やくめ E 体面をけがさずには
早さずにしまふことから
cannot
だから 彼の友人は 努力する
やうに彼に すすめたのである。
再そうしやうと決心したので
あつた。その友人の勤勉も
けいくわするのみにに 何等
なされなかつたのであつた。
この 熱心に 忘れだに
流れぬやうにのつた。
又 彼は この生産を送へ
たびことに 自分の ちがひ等を
決心などをなすものとなす。
時間を完璧する 決心
するのであつた。

かかってる

彼が贅物はいのりにも又ちかひにもていこうして居た

私は黒しやうぞくの尼さんの図ぼうしのやうにあごの所でむすばれてるぴったり

ひんじやくなきゝろい顔色をしてゐる

併る当私の僧に立ったのは小柄な丸々としたかっこうの婦人であった。

彼女は成る程私よりもとし上だったもしれないが267才をこえて居なかったでせう。

同じやうに美しかった。

帽子をかぶらず こるみ色であった。

そして聖衣をちぐらして居た。

〃 顔かたち

目鼻だちは美しくはなかった。

大してやさしくも 端正でもありませんでしたがしかし決してみにくい女ではなかった。

今私は此の目鼻だちが表情にとんで居るやうないけれを見た

いちじるるしい とくちやうは
親明であつたか ふんづつとなつたか
とう考へ来した。かいしかし
公平だほとんどその点に
かいしては確信を得なかつた。
併し見る目に邪魔にここちよい目の
すばしさがそして又顔色のいきいき
した気があつた
おいしい林檎の上のくれないの
やうであつた。
ゆち 表にとともに奈にとともに
中みのけんぜんな
ルーター秘方と私は同伴に
取りかかつた。君は大へんお若く
あり両親たちは安心うまして
君のやうな先生を恐らく反対する
かもしれないから平均の賢明で
あるかいなかについて全くは確信
はして居ない。ところで人は
自分の判断に従つて行動

recommend	推賞 ~~recommend~~
informed	知る
address	辞令
Overpowered	圧服する
Vainqueur	征服者
terre	世界
attendance	司候する
neglect	等閑にはず.
repulse	はねつけられる
uncovern	無とん着
labour	事業
notice	恩顧の.(みとする?)
impart	與へて。
obligation	恩顧の
for myself	独力で
province	天
asperity	拗虫
cynical	皮肉な
conclude	完了する.
exaltation	かんき

するのは個々よいこと
面倒の分かり次第になるよりも
こちらからみちびく
先生の適否は年齢の問題
だけない　くわんさつした所に
依ると音楽の　この人は
すでに死れ近い
その人よりも私に信頼したいと
思ふ
私は　彼女が私が彼女に
好評に必ずはじ男であると
いふことを見出せばいいと
そして私は私自身を知つて居る
が私は私に於かれたる信頼を
うらぎることが出来ないのだ。
彼女が更にかんとくが
げんみつに努められるであらう。
それから彼女は條件の問題を
論じ始めました。彼女は
全く自分をけいかいして

非常に注意深くありました。
彼女は必ずしもかけひきをしないと
はうひないが彼女は 正しく私の
心をさぐって私の強化がどん
なものかと見えなきりとしました。
その全族を上げさしることが
　　遠くは　盛にときたてました。
私をして年五月ノウンに
きめさせた。
その高尚の取引きが終らぬ
うちにそうしなったが大して急がつ
ちかったのである といふのは
私は彼女の弦ぶりを聞くる
に坐ってることを非常に
好みましたから。
これに 彼女忍けした一様の
ぐむの様 が非常に気に入り
ました。

彼のこの時代の手拍(ひか)へといふ
言が身をせむることが色々書きつけてあつた
例へば19 終結さいの前晩
私のなまけ気分は更にひどいちどん
の状態にお呼いつた
不しぎな動念れなやうな気分が
私を襲ひ
だもんだから昨年のことばどうだった
かをかうね
ふのつくわつ家が来た
その時にも同じ状態であつた。
それはさうだ
私の時間はむだに費やさ
れた 文をいなんう
夢の如く見える
社様がこんな人目が私のこんなに
逆じるかといることがわかりきない。
昨かこうゆう状態に
しあはせなことはかやうく
といこに出れてる魔力は

とうとう やさしくも 親切がも
ない所の手によって殺されるに
至った。
僕はコクリーンのある 出れに
出る 本年に注意を拂ひて
至る程 そして完全いの友人
の さけび出されたせいれいから
消息を 二字かばれぬ
消息を聞かると思ふて ——の
——の都合へ 増一はに
完全に出かけて行った。
僕先の出れいはおどきとは
たんじゅんせられても 遂に元を
してものをいはなかった。
行号 したづらなりせが
なくさんの てつかてくれを
ぐらうしてなぐ受めてるとも
こいよてとか明らかになった。

能力を発揮し 人気に酔ひ、至堂へ
とうけんぶ に与えて　ころりう
かくりつ 世界的事業を成する —— 1/6 920年
(の名) ぶじよくしてせる理由を　来
さがして居たが
—— の あれいの 三年の
くるぶうたる

あの もう永い間よかく生れて
長い間
おちやられ 冥んではられ
た 君物はとことと子が見
厚ねた、
そしあからさまに 大道徳家
さきとはした 女性 非難した
この恐ろしいことは世界中
まきおこしたのである
そして 17 65の十月
九年間の 道主義
新ばんかもえる

この場所はジンミンの
正直といふ名よを救ふたので
あつた。
能力及び学問の名聲には何等
所ぞんはこと立派なる句を含ん
でるが最上のきりやうは表はれて居ない。
もつともからある註釈は他が
和の間の人間の生活
は情をいかに注意して
みをまし 感覚を有するやうな
註釈であつた。
もつともよきへう本はは
性格についての註釈だ
ジンミンが
かやうにおじれたものは
ハムレットのみでとかこうさつに
別にも見出すことが出来す

偏しここに賞さんは終りを
つげねばならぬ
~~一体この~~ これ程 いかなる 古典の 形作も
にそんざいな
からないものを示しことはこんなんだ。

讀者はこうゆうものを
序を一つづつひつくりかへ
して見ても一句でもうまくすいそく
してていたくせい
今後の注意者を失望させんやうな
末句をつでもとかもの
満足に説明せるとは見あたらぬであら
ジョンソンが ~~[illegible]~~ しゆいしよい
彼のくはだてんしでとには
とくにてきしたものが述べた。
なぜかといると じてはいたく
者として彼の先人のいかなる

明朝の英語を一層ひろく（めんさつ
する）もとにあつたからであつた。
必要

彼の文学の知り主はかいはく
であつたとこしふそは争ふべ
からざる 不幸にも
[illegible]してることが出るにのぞまし
ある 神分を全くゆるがせにして居た。

四 古いものをかんこうする
~~所がいこうへいや~~

ゆらい 面倒の説を断定することが
きけん ぜ通して居らなかつたこと
いかなるぎ 四ぎよくなる
いん用せるものはだつた
一句でもないということを
断言 してと暴言であから
ごこりこは 数ヶ月かかれば
現存してるあるゆるない 戯曲に

精通することが偽れば
所が そんなない
これはがれが くはどでた
事業に必要な準備だと
いることはほとんど思ひ後
ばなかったらしい。
——— ユーリピデスの
前述に通じて居ない人が
ソホクレスを刊行することが
愚の高頂だといふことは
認めたてせ
但し彼は生れたから
異見し終る所に依れば
のたった一まくでもよまない
——— を刊行したのであった。
明の
くあぎたく深して

そんけいしてる人でもの
一ケ3ゆく物の新むを
早せる方法に 堂さんに 教えて
ついては
併し彼は長い間彼の両親を
苦しめて居た責務を果したのであった。
そして彼は 後って見ざまされた
彼 つーそのじげきに 彼に見ざました
休眠 休憩にもどった。
彼は長い間すでに 絶え 看せいを
長い間 保って居た オクスフォ
博士号から
文学協会からは 教授の職
王にはいいつを 給いた。
陛下がたて
かやうにすぐれた 紀家が
今ここに 書くことを ないやう
希望する 衣ねと こんせつ

にのべられた。
たったこれの政治に関する
れ同るを
そのうちの一番長いものでも
サベチの像やRasslasを
書いたやうに本気に書ければ
日十八日の間で書け得る
かきものを始める気にならない
やうなものに気分にもかかはず
日数では.
一番も変へないで印刷することの
出来る程な　主体な
家間の問題　けっきろん
論ずるとことは
ゆくわいなことであった。

彼は言ひるがごとくあしをく囲んで
ゆっくりはなしをするのが好きだった。
彼は 話題をそらだすやうな人
に対し のり合ひ馬車にのり合したく
いんしよし店で
彼のみちたる所のあふるるもの
のが 與へる 従し彼の會話はのこの
な人即ち 之の能力ちしき
で 彼の好ぜるよこに
なげかしむるんにといか
はなばなしき服ざまし
きことはなかった。

19 うろづを作った
だんだんに文学世界に恐ろ
しい勢力となった。
この 彼みつ會によって 新刊書物
に下されん評決は すぐにロンドン中
に知れわたった。

そして一時に全実行を
うけ切るか或は
トランクやカステ弾やうに
相場を定める程な力があった。
それは言ふかこの小さな行づ
にいかに偉大なしゆじゆをつた
の力よりあつまつたか
といふ考へてしれば不しぎと
[illegible]と軟子学の大
がりつり　ソノムジンカイギャクとなり
なきものまね　台の計算に
完備せる考へき　會合
はれもそだらもいいしんし
有情に従つてみつせつに
性格習慣

性とうの 独の見解 独の生活の
しんせんによって その名前きべてぞト
ランゲトン
情事 花柳界の地しさ やかましい
しゆみひれてなとんさいなどで
分るな
かやうな 国内の主権を握る
ことは
ジョンソンは主権をにぎって居る
ドーブであつたら他のものは
やむを 主権を 争ふことなく
出来たである
一般には あまりしんぼうづよい
ききてはなかつたけれども
ジョンソンが
ききてで満足してる。
そして 93ヶ日目はかわに
いてたのこの
ジョンソンの93ヶと抜せられてる

4/6p.

第貳学期

國体の尊厳

大神宮を拘引せしめん！

偵察者、尊重させられて居なかった。

尊厳とあるのもよういなこと

ではなかった。

ベンゴール　名門　立派な財産

才閥子

ミヤし者　うルサイ伯

うぬぼれ強く。　進取的　好奇心

おしゃべり　he is … の形容詞に非ず。

推理スピリット

精神 栄

南十字星座

現行国際法犯罪トシテ！

乱視が　近視拝納

patriot

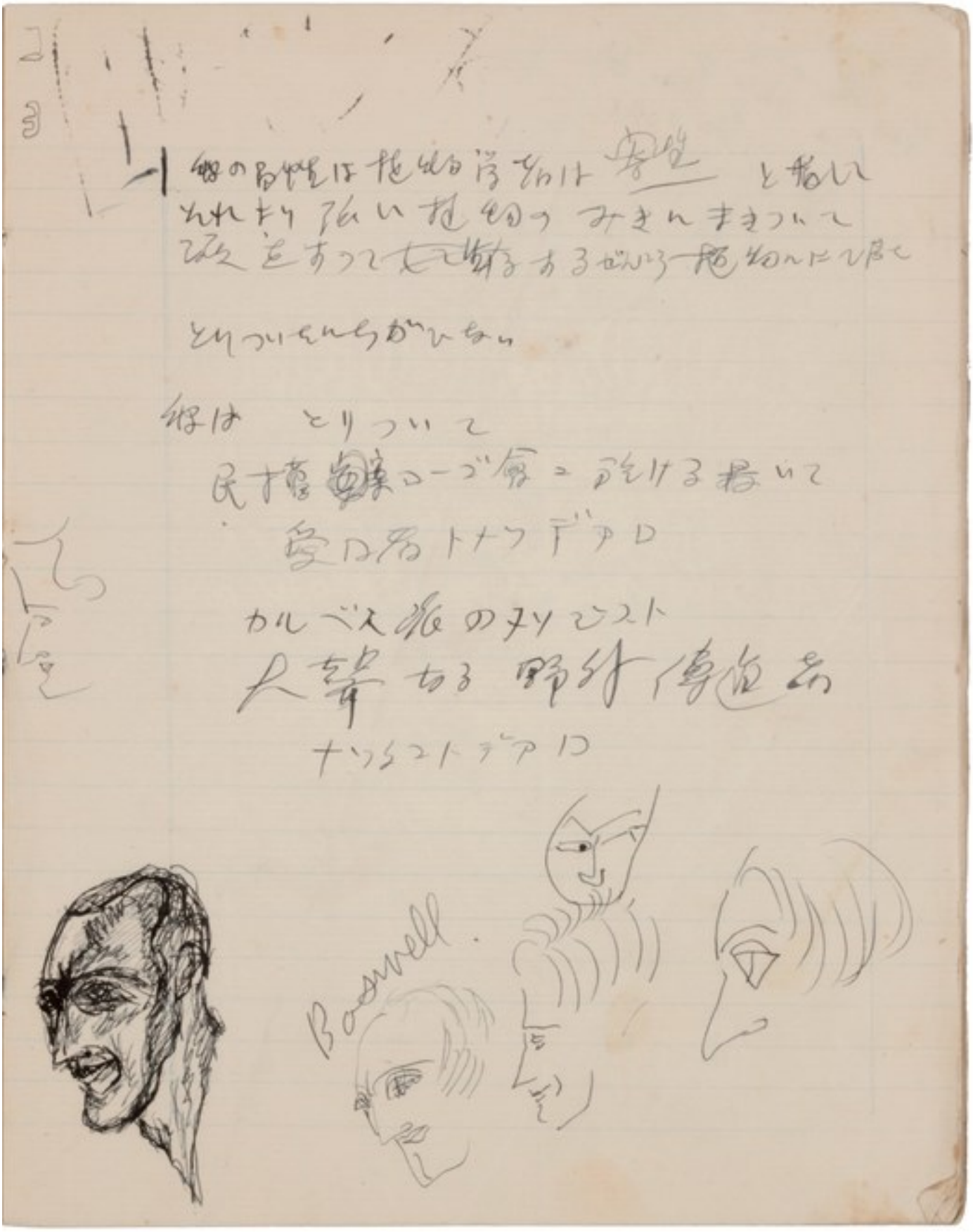
patno

patriot

patriot

patriot

patriot



Boswell

She She She She She She She She She She She She She She She

遠くにいる家の人が
遠人親友をむすぶことになつ
ひらけ し社 えらる
ふてきとうに
へんざき
てまね ゆりうごかすこと
思ずかい。ぶつぶつつぶやくこと
黒いかお（仕事をしている）男
がつがつしん 折々 かんしゃくを
起されて。 結果 結果
これらの苦労では[illegible]のある[illegible]
交友 [illegible]
一そうましたんだら
これらの苦労は しだいに
及び遠慮するらの長い間の
苦労でおつかれ[illegible]よつて
わたしのこよれを 根強い[illegible]
（ぎんれんする）
たがらだ
ふつうの 主張 しいあつて
かくらの 人に けんきょな
わけを

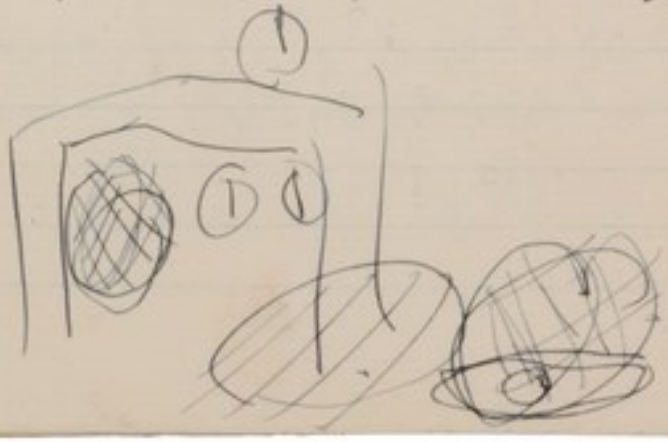
上海の九三

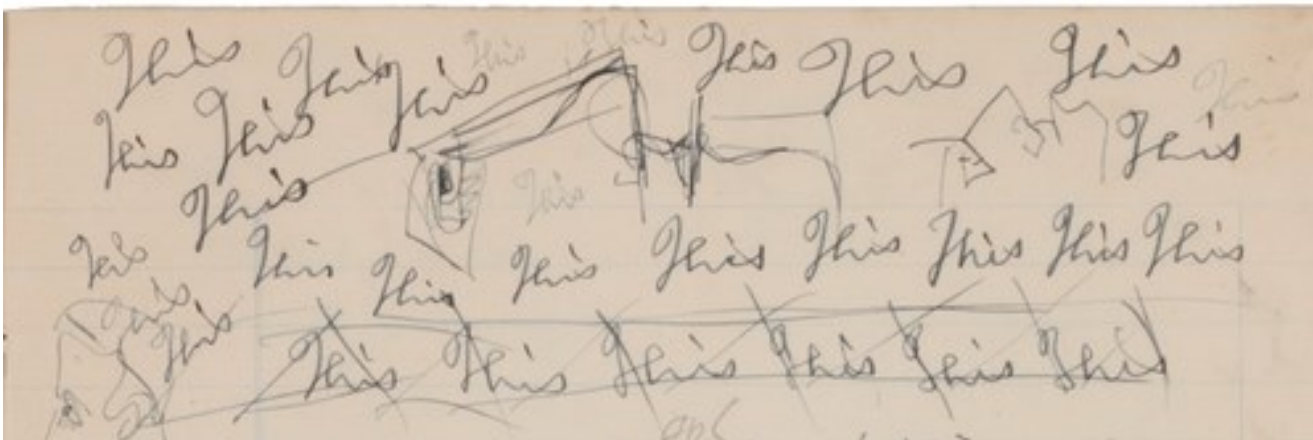
見えたのであろう、
所がジョンソンのやうな天才
博学
しやうさん 冥鈴

ジョンソンは間もなくサースバーラの
醜悪所に一定を持ち
そして彼の友人の
年々の大部分はこれらのすみがで
すごした

彼がうつうにすまつて居た居室に
もしかくすれば立派なぜいたく
見はれた
主なるたのしみは アビニアの聖学者が
訳した言葉のうちに婦人の 教育の
るつかしみ あるうるはしさと論ずるもの
から得られたのであつた

スキーれ婦人は随分彼を苦化したり
彼女が若し彼女の程度に従って
彼を喰えたせることがあれば
大女の如き気だてのやさしい
彼のしつせき
充分につぐのうた
之彼が身体及び精神に
経て 而める時には彼女は
最もやさしい
富なるものが 強める
いかなる 何も婦人の
器用な知恵が やさしい
回帰によって うごかせれ
と夫 せつぴも 彼の
病室にはととのうたのである。





紹女 父のあり しやうを持
併し 多少 見吊ぶつたいんぎん
の気をを持つて
その いんぎ のたいどはぶこつ
のみのではあつたが 今はすれて
は居るが しやれものや めかしやで
ある はさりとした 行の
ばかものの連中のせはぶり
よりは ― そうりれしいもので
あつたにちがひない

旧のの しやうがいの
たつぷり半はこと ― の家
ですでされた気しい
紹はその家ぞくにつれたつて

pen This is a pen pen This is a pen pen pen pen pen This is a pen pen pen pen pen pen pen

又あるときは
回路に　五字のせまい
れんきよろうちのん せまい家を
かりいて居たんだ
隣九竟へやへ件終の
しよきいがあつた
手製とざつたの てすと紙が
集められたもので あつて
バラバラに 紙らばつて
ちりに まみれて居たのだ
下の部屋では折ら
ひてまれい　直寺ら
合事　木鮮がノ丁式
はい年の日に ほられん
見らをそへたもの

This is This is
This is a ~~letter~~ This This THIS
THIS THIS THIS

ライスのビデムナドーを
多人を中てなしたものであった。

すまいが彼の長いるおの間
だれもおまって居ないわけでは
なかった。
その亂はかつて集められた
とつびな集まりであった
亂であったのだ。
先づ家族のかしらには
ライリアルといふばあさんを
置いた。その主なる取扱は
めてら全ひんこんであった。
徴し彼女が小言をいふ
にもかまはず彼は今一人
彼女に

う处を眞似させはしてやつた
生ひ知つて居たのでうあつは

彼人の姪　ひろげる
知事人　ふつう miss
genetoul
ジラレリンか
夫人~~の持つ~~ても
又
気に旅てさせやしない
田舎　年よりのせゞ
保者この人で　この極強
な動物園を完成する

Leverett は不案の
うんはれ人夫　かし馬車
運路
の助手を運んでしたり
とうやくしたりする。

その後しろにはなんとかし

はづる或はジン

等をうけたり わづかな

銅銭

これらのかあいそうな人たちは 夜に

たえずけんかの 絶ぜ テロレボのサーバント

のうろうろ と

笑さい 隣人 けんか 敵対行動 (pe.)

を主人にうつしことであった

衣服が悪いといふことを不平を

ならしたり又 恩人をののしったり

じゃじゃ言ふたりして はひには

ジュリンが 幸にも かりされたので

俳しジュリンは 最も 封建 あり

又 とみを はこつてる 車屋

とうとい 帯かある ベトロ

などの ぶべつの如し見えたる

所 ことは 何事にも

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新ぶんぜつし　　記事論説を

かかげた　　恩恵になる者

こえ上　かすみ服だ　　恩給ふ助者

又或人は　おぢの一人が　重ざい

~~はん~~はんに決せられ

證明する。ふくしうしてやると脅迫した。

もつともけいべつせる言葉で

そのぎぞうの非難をくり返したに

過ぎなかつた。

しばらくの間はこんぼうもつて

歩いた。もしサギ師が

~~それに~~ こんぼう ~~でつくわし~~

かしくもさけて居なかつたなら

英雄の誇ば　　鉄に上におちるせロく

かり　借りて言ひば　　の話上 ~~俗に~~おち

そのほかも　其日人つ重み

を与へる事の　知つた

一本あることを

Professor

先生　英語でなんといいますか。　もうこのことは
なんと苦かしいんでせう
　　書くことがいきぬ。
ところで先生　　先生は大へん早く
お讀みになる。
ここに於て　すんなものがぶつぶつつぶや
いや。始めて口を開いてきけんだ。
一向しづかに　反対に　前列の三人の者あが
一そう　聲高に
　わからんところの　なんかを書く
ことはたいくつだ
うしろの方で　笑ふやつがある。
幾分のきはぎが　教室にみなぎり
始めた。
早速の年後を講じることが
必要であった
悪な調子で　れんしゅう帖
言って　かぐみながら　れんしゅう
帖を設すひまのないうちに

ひきとった。さてあなたあなたの
諸事帖をください。
一寸者ざめた感じ少せい治しを
しかけながらつづけて言った。とくわく
そして又その少せは私は教室内
で　　通常深い学生であると
気がついて居た。その少せが立って
歩いてきて
おごそなな　つつましやかな
おじぎをして練習帖
ざつとながめた。
不明瞭に　分けのわからぬ
ことが書いてある。て　あかな
まちがひかゝみち
そうゆうおうに
いみのとれぬやうなあやまり
はなかった。そして又
ほとんどつづりのあやまりは
なかった　私はこの勉強を
しめしながら

は田づべきである　こと私は言つた
秋せの書取をていねいに
四つにさいて紙片を
けつこうである　書取に備えしてる
とび笑して　その本を目返し
七面鳥のやうにふくれたつた
反抗の心　好が静められた
最初のこしかけにすはつてる

うぬぼれたこび　無益な
たはむれは　ちんもくの不きげん
にかはつた
尚一そう都者のよいもんだつ
とどこはりなくすぎた。

それはの鳴りひびくかねが
体上の明対をつげた
M.ペレーのがくかうの
すぐあとに又どこかの
ひえの学なのかねをきいた。
直チニミダレテしなつた。

主ちとつた。
先生におじぎをして

りしたのやうな通学生が
まない先に出つた。

更に 内部の教室
百人近くの生徒がかんまん
せられて居つた。
そして教室の高まりつつあるさは
ぎをきいて居た。
よこぎり ろうかの所に連事や
私の所に出て来た。

不幸にも 数ヶ月たつてから
そねみ 深き
なし得なかつたことをなした
幾分 それによつて この名をけがす
ことに至つたのであつた。
施政地の筆論は 平和的
てうていは 不可能 といふ 真逆
迄して居た。

内粒

円乱は11日 おかけさしせまって行った。
そして大臣等は 二二 の夫人
とうに対して口民をせんどうし
そして大臣等の 丈夫に
対して ジュンソン 雄べん
を 利用することが 出来やう
と考へたらしい。

彼はすでに 政府の 内治
外交 政をくを ようである 多
い 小さつしを 書いたことあり
それは 皆ど 彼にあ
さはしからぬものだつたが
の 有さきにころがつ
つてあるやうな 小さつしに
しかし 彼の みじめな 失敗
であつた。
その 名 自信は 馬鹿げたものだ

誤ぜいは
あつせいに 推事

ひ　ろうんだ[とりる]かい

ひびきのよい頭い人の甘口き、彼の
あなどって用ひざるべきであつた他の何者によつてこ
何等もんたくのとり得がなかつたのだ。
小手が走ろうん舎で用ふる
洗濯であつた。
舎んでるかいぎやく河馬の目
ふざまやれつ
ばすうえるでもらも この有意な
一ぺんに方をては 能力のけいさ
をみとめることは 出まぬといふ
ことは 自由自

発表した 能
タイムとシンパイが表はれて
まんのであつた。
もう書かないやうにして彼の信用
を落さぬやうに 必ず行ければ
一番よい。

例えれば大な
一週間の際に　を書いた
時分程　旺盛で好かった
のではなしに　俺はおろかにも
決してとりあつかふしかくのない
問題をえらんだ
人にえらばせた
　政治家でなかった。
僕に　多数史　風そらくに
　ぜつたいにきらいであった。
起つてあらそはれてる問題
　なんの意見もなつて居ない
やうな問題であった
　必ず失敗するものであるやうに
失敗した。
幸にも　俺の失敗といふもの

知力の長へた為でない
最も明らかに
という 空明を得た。

1777 後浜祭の前晩にロンドンの
一流の本屋70人から成つてる
會合を代表した 彼は 仕事をする
ことを少しくちうちよして居る
けれども彼は 応接した。
真口 淳人の刊行が 計畫中
で 書いて 貰ひたいと 来た
さつそく 非常に適任らしいこと
一部は書物
とざされた出所から
出たものであつた。

古い 三ろ子と 徒子の傳説
教會の 地下の墓所に おきまつて よこたはつてる
もうとつくに 死んでるやうな

Gilbe

今は忘れられてる 小詩人 幸の話から

バトレなどの才人とかたらうたことのある

西時代の感由家の脚本を
台さしに解作し Cibber
という人から

反さいしたことのある
Orreny から

あまり名等ともならぬ助力を
Pope になし Savage
から、

それなら 材料の富宝なる
頭を持ってしでとい取りかかった。
小詩人の傳記はたゞーパラ
位づつ
最大詩人には五六頁にとどめ

2題をつそりぐつた。

批評　せ柱みぞにはんらんする
予象定ノハンキニ
オサマリ
始めはわづかな数行に
止めて置くつもりであつた
十冊. 著述　なる程小さなあれど
密刷ではないか

始めの回巻は

詩人傳は　　すぐれた
治は小説程に面白い
人生　人間の性状　について言ひること
~~[illegible]~~　眼識あり
批評は　徐々大きうすぐれたものである。そして　びどく　暗きんしい　程不当
であるやうな場合にでも　けんきうする
ごきかなあり

wanted

まちがって居ろう
ばかばかしいものではない。
せん見えこそばせられ又
　諦的感情はかけて居たが
力強い　必ゆえの
はんだんであるのだ。
　まぜものから分たる
　　かち ある
　　幾分づつ
どんなに更くとも
何らかを意味するといかことは
　現代の批評としやらせ
如てる多くは これを要求するけんりの
もう 論議である。

サベヂ傳を 11744と
ほゞ同じ年代で再版した。
savageの訳を廃れば（後に他の）うまく傳をよむ人は難でも
文体を
きょうぐうが
筆を取ることが少く口をきくことが
多かった。
~~[illegible]~~
ねんいりに文章を作ること
をやって居った間につい古
文体のくせはいい前程
目につかぬやうになった。
陪伝は以前にかけて居たやうな
時代的な陽な風を徒に
[illegible]
[illegible]
――にでも見わかりつけて
気がつかぬことがないの
である。傳は
nearly ごとく

This is a

Macaulay

この大[illegible]ちょじゆつは
すじん発をはくした
よほどせいとうな雑なん
よほど不せいとうな
[illegible]とも 雑誌するやうな人で選べも
[illegible]
ひきつけら事のであつた
利益を 見つめた
著作は
初めは ごく
あつたんで 後は
けいやをを むすんだ
出来上つたものから
どれほど
後の 幼年を こえたか

を知ってわづかに今日ギュー
あなどりはしなかった
あなどりは あなどるやうな風
をしなかった。
彼の子気に常しきと
長いけいけん 自分の
利を保護する資格を
そなへて居る者であったが
子爵上のかけひきにはきたいに
下手で心しゆびであったらしい。
彼は概して ← いはせて居た。
すぜ及する元気
もない程の 掛けんを
うったものもいくたりとも
たった あげて言ひば
かちある物でも

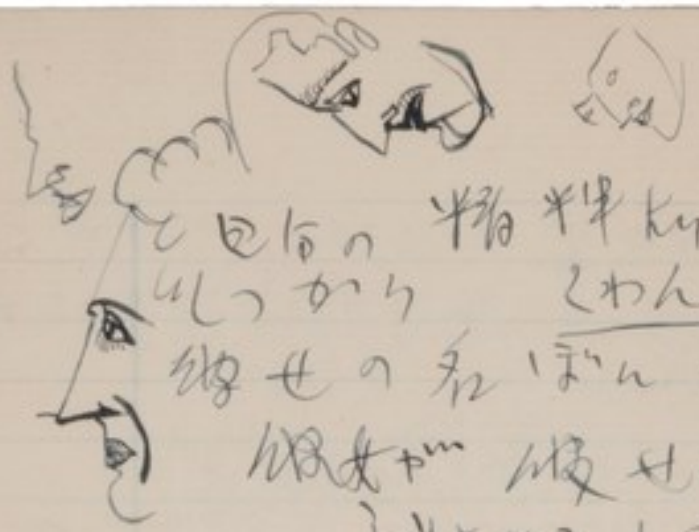
言ふのは　遺名に多し
少しも不ぶなることではないのだ。
今は ワ ユ キ　加つて来た
老衰がしきりにつのつて居た
恐くなして決してさくべ~~なける~~からざる
事件は近づいた
regu
陰影
しばしば長じゆのざんにんな價を
拂へねばならなかつた。
さいさいくりかへしの出来出
ことを失つた。
不見識な寄宿者
保でしてやつありそれ
その缺点にかかはらず彼は
名幅で深くあいちやくして居た
一人一人死んでそうつた。

そして彼の家のひつそりとした
中であつてどなる[illegible]そ注意しさも
をしく思ふ　　競技

親切ながりよろあう
そう死んでしまつて居た
もし彼の妻が見かれたならば
つかうよかつたである

併し[illegible]きなかへて笑ひ
草と
そして　丑の中でいかなる　わたま　まして思つ
もつでも彼女を愛してる
老人の眼から彼女の妻
にそそいだいたましい
涙を流さしめたのであつたな

いろんな穿鑿すべきいたの
ゆかいな特性を有しながら
獨立してるやうに出来て居なかつた



と回合の精粋より一そう
しつかり くわんり といふことが
彼女の名ぼんには
彼女が彼女の夫
こりよあるしつかり
さ さあんることには彼女の
しゆみ米米にさして併し
爭はれぬ主人であつた
よしさいせられてる間は
どんな悪い欲果でも
失礼な冗談 むじや上な言
しばらくしわてることは
あつたんだ

そう見えで持つてそして
ゆうふしな くわ女帝となつた
帰れ びんかんな
うつりぎな 気まぐれ
かんぐつのとぼしい判断力

陽気なこうきげんに終る

彼はすぐに Bresca から
来た音楽の先生と気におかせ。

何んも覚えんすることは只
彼女の自負心又多分
これよりまさつたる感情
がこの不面目な情熱
に対していたくもがいた。
そのもがきはひんけつをいらいらさせ
気しつをねじけさせ、そし
けんこうをも危んしたのだでな。

彼のせんたくはデヨー
のたんさんせひ
しつて、彼のかんしを
のがれたくなつた

Athena Athena Athena Athena Athena

Geben Seschlossen w Athena Athena Athena Athena Athena Athena Athena Seschlossen Athena Geschlossen Athena

彼に対するだいでは
一変した。
れいたんなこともあれば
おこりっぽいこともあった。
彼が　さったときは
ようこびをかしすことが
出来なかった。
おかへりと申すおめはしな
かった。
そして私彼が　まれかれず
こまるやうなことがあれば
彼は　もはや　さとわる
やうに彼を

お宮宮
宮下

宮 宮下 宮下 宮下 宮下 宮下 宮下 宮下 宮下

<u>点</u>へた　きはめて明れうなる
ヒントをさとつた
彼は最後に　自分で設けた
<u>こしよしつで</u>　――の一章を
よんだ。

これからあとで　きとう
に分くて
その家人を　神の体でを
ゆだねた
彼の　<u>こる</u>を　力づよき　五体
感動を持つて
永久に　愛して居つた
家を永遠に去つた
うしろな　しりぞいた。
そこで彼の高のこつてる
わかが　不幸な運命
がつきのである。

中風にかかった
従し 智的能力を
少しも 元に回ふたらしくはない
従し しつぐいが 彼を
日弱 しきりに
水膜のあやうこうが
あらはれて来た
病気のへい発症のもとに
寛へつつある間に
彼は 最初の十六年間の
おもなる 幸福だった婦人が
友情が
彼女をへのしりってる
しんぶんよつし
ハムレットの二つの画像

ひきあいに出した記事で
一本である。
彼は遠心に彼女の
存在を
彼女の方を見ようとしなかった。

彼の眼にふるる、
彼女の記念は昔出し
投じてやむした。
彼女はその間に
口々の嘲笑 叱罵
からのがれてそして彼女の
口へと行き
レコナード僧の

その縁と彼女の名は
何ことの出来ぬ中らに忘れ
されたる偉人がこの世を去
りたといふことをきいた。

彼 彼 彼
彼 彼 彼 彼

彼は
彼は 精神的又からだの上の
苦つうんも不拘 やつぎと
なつて 生命にしがりついた。
アイドラ 此の連ぞくを
とぢるところ 主張な・いんき
ちうんせつんのべた感情
最後の時期が近づけるときに
彼には

彼は 呼吸することが思つた
南の土地では一そう
楽に

のひのようを気づか
はなかつたら
――――に向つ多分出発した
のでせう。

実さいしはらう支分があた。
2000ポントを貯金に附た。

俺が幾ばりかの郵便屋の
財産を作ってやった帯力の
をたらせる結果であった。
俺が俺はこの貯金に手に
つけたくなかった。

俺は　おおきんがあるといふ
ことをひみつにしてさいに置き
たかったんであったらしい。
友人の話には三年待ちについて
貯金を元百ポントに増して
出来ればよいと思った。
俺はこの のぞみをむなしくなった。
今冬　貴方で過そうと
決心した。

この会は最後であって
終
降臨が短くなって水は
苦痛に対しては勇敢だが
死ぬものに対して
だんだん深く切解させて
行ったが　すぐ水は
くつををやはらげた
——の　日かの間
かのやさしいかんごは
うけなかったが
淋しくとりのこされたわけでは
数かな　そつともえらい
内科　外科の人達にかかった。
他からちれう代を受け取った
感動そて他から別れた。
病室は広く生って
病床につきそうてかんごさせ
た。

老人がかかるのごとく魂を
てあつて可愛がつてやつた
と口にうつて泣いて居た。
又 Saytonのその信仰深いことは
かやうな時に於ける ——
たゞ一なるしかくをそないて居た
友人としての最後のジェンソンの
ご 〃 握手ヲ受ケる

(そのもゆんかんせまつて来た時
おそれられて居た)
黒きくもりがつかれてしまつた。
本 いつもいなくやさしく
犯のかなたに 揺たはるもの
他は他のめぐのChristの
讃嘱たくさんにかつ

obser

あり

おちついた気分で

——〃

著名の人 彼がそのでんき

作者である

ほふむられた

なんとくどいふことは 非常なせきんである

なんと申言いましたか。

両氏は時には 幸 動に少し

つかれるに 相違ないと思ふ

といふことを言つた。

駄 駄 だ

一方に於て すすめた director 校長

あなたもおあがりね君

私が彼の こつぷに二つの

かたまりを おだやかに

ぜん私に話をしたいと言ったのであった
実さいどうゆう題目についてですか
おさしつかいなければ
これといふようなものについては
落ちなかった。
色々の問題についてもお
それについて話
私に言った
おばあさんの番とく しゃべり相手
が 勿論そこに居んでせう
一人ぎにになる光輝を
いい それはけつこうでした。
言った。
それについて わるく考へる人は恥ぢが
がいい
私は その私の 隣人を 少し 知ってるんですよ
その場合に
ごくくだらぬことについて
長々と ぎろんに 耳をかたむ
けながら 長々しい きかせながら

ソーフハ・理由は何であるか
・俺せはあなたの性格を
さぐつて居たんだ。
君の弱点をみつけたの
無論
さぐりを充分入れる婦人は
胸にある丈かり知ることの出来ぬ感受性の
いづみに達する
胸に回がさはじやうに
頬があたたかくなるやうに
或るせはそれが出来ませう。
ルターはそのうちの一人で
あるか。
さあ正直治をしなさい。
まだ若い恐らく君よりは
年上だ。併し びしゆくな妻の
学に母の親切加へる
ぐらひ母の年値である。

君に非常に気に入らないか
いや私の事は事らしくあるりだ
半ば田上らしくありたくない

年とりすぎて居るか
他の気に方全て私にてきとう
であるならば一年たゞ一日も
年上であると思はぬ
ウイリアム彼女が君に直当
でもないか彼女きもちのいい女
ではないか　個人としては

全くそうだ彼女の整顔は
まさに私の賞さんしえるものだ
すかんたは全くベルギー式だが
ゆうびにみちて居る

Bravo

素敵顔は日暮えちは
どんなにすきか
うしするどいことに口が
内心ニヤニヤと笑つて

口のへんには特ちゃうがある
しつかりした点
ゆくわいな笑い方をする
むしろ狡猾な
なるほど　ずるそうな表情は
~~まつげの~~ まゆの高さ　君は
まゆに眼をつけ
目をつけたことがない
うつむいて居る時を
S Sime

椒
ほうほうと
同の丸に
Tarau
蜘蛛に
寝れ

Sentimental

Sentimental

Sentimental

JOHNSON

彼の死んでから
著述の人気　と多分
のぞいて多いに減じてしまった。
自分のものとは言はれぬほどに
引き合ひに出しても
文学界さつぱく理解せう
いささかうらついて来た
・作し述の名前は良いたが
不しぎにも偉大では
Boswellのジョンソン傳の
~~Boswellの自由~~
ジョンソン自身の書中の
及ばぬ程彼の為に
つくした
かの当週記の最名は
著述に依って生かされてる
かに遺名は著述の多くを生かしてる

デデ
今でも尚金のボタンのついた
上衣 洗はねばならぬ洗
を着て 目をくばたかき
いきづかい洗
指で二回二つたたき
肉をさき
茶をかぶかぶの人で
今尚我々の間にある。
記して七十年以上たってる
デコンソン程我々
に親知られてる人はない。
彼の智力及び主張の
変な好色とは彼であったら
しまう~~[illegible]~~ したであろう所のものを
吾々がいwell-knowことは
偉大な(偉人である)善良(善人である)である吾々の確
だに強うするものだと
いふことは尚公平の
論に過ぎぬのである

目の保養

見る

しかし、それはごちそうである。
なんか一方に於てぎろんが
彼女の周囲に付はれてる
さいに　　私に何か知かの
婦人のことを考ってる時に
おちついてあみものをしてる
姿を[illegible]して坐ってる。時に
彼女をごろんなさい
ぎろの最中において
性格の~~[illegible]~~とくちやうが
表はされる重要なる~~[illegible]~~の
点が詳論せられるのだ
ぎろくに彼女が加はらぬ。
彼のけんそんした女性的な
心は全くあみものに熱中し
てるのだ　彼女の顔は少し
もうかかぬ。彼女は○さんせいの
意を表して
不さんせいの——表して
しかみがほするのでもない

きんぺんな
しごとが好きだふりをしない

よそはぬしごとをせつせと
やってる。
彼女がこのさいふの
しごとが出来さへすれば
形の少い
+
彼女にとって充分だ。
誰かの男の母人が
侍子に近づいてもより一層
おちついたやうす
やさしい

新にあらはる
新。全体~~のまゆ~~
彼女のまゆを藐さつせよ
片方のまゆにいく分猫
ありはしまいか言って
もうひたい

私の最初のきくわいを
心がけて保護して見ませう。
まぶたがふるつる。
(はい)ちよつとそうすい色のまつげは
(田)上げられるであらう。
まつげ(まく)の下からちらになかめつる
君の目が　ざんじ　せんさく
てきのに耶めませう。
そして又視線をもとにおさつ
一体けつこんするでせうか。

けつこんですつて、
小鳥が一緒になるといふのか
勿論俺せずてきとう
けこん　意志でもあり決心
である。
俺せ強自分の思へることの
出来るやうな印象を俺せ強知つて
るものはない。
しづかに人の心をなやますことを
好むものはない。
君の心にのしのびあしの跡を
のこさかつたつもりならば。私はご解してると
思ふ。

あしですって
とんでもない。

私の心は人の上をあるいにあるかれるいたではない。

併し びろうどのやうな前足のやはらかな感じは胸に寒を覚へない

私に喜へて呉れぬ
彼せは全くけいしきと
遠慮一点ばりだ。
先づ手始めにはそうなんだ。
身分をけんちくのどだいたらしめよ。
〃 身階を階下たらしめよ
身を階上たらしめよ
ロイターは じゆくれんせる建築家だ。
興味、興味といふ点はどうえの点を考へたことでせうか

石と石とのせめんとになるでせう。
吾々は女学校のことを論じたから（学生達はどんなで）
あったか。
若いそのの間に何かりつぱ
なけんきう材りようはなかったか。
十八世紀の英国

Oliver Goldsmith

昔からもっとも帰ゆ大な
長くヤイルにおちづいて居つた
たものであつ
たいがいの他の新聞の
サクソン人の
コンランせる時代にあつては
土着になやまされ
黙せられた。
新聞の サクソン人の
家に出れた。
かんとと教官の学校で
先生
校長の娘に 愛着し
けつこんし。 僧職につき。
一部は
得て所のもので

first
first
At first
At first

その場所は当時は

車用路の区分では
多年が過ぎされた　郷里の
かけはなれた

今は　開拓地　と同じ

位のもの。

今はこうさうその方への
なんじやろうとたづねて
やらな —　道は旅行の
あとの方の部分はかちで
やらねばならぬ。
男(？)は大通りから —
雨がふると
小路　どんな車輪でも
とおれない
（とけてしまう）
どんな丈夫な車輪でも
ひつぱれない道なみ

first first first fer first first first first

黒丸 cognetic ット 黒丸 黒丸 黒丸 黒丸

sang 黒丸 sang 黒丸 sang

Kin sang

Kin sang

Kind sang

Kind sang

Kind

性格の研究ですが

少くとも私の思ふことでは豊めづらしい性格の研究材料でした。

併し人は最初の會見に依つて多く見ぬくことがむまぬ

アア 分別顔をしてる

用心深そうな顔をしてる

どうだね 人々の少し

恥かしく思ふことはなかつたか

併し私は目的にかつて

それそうとうの丸い目せいを

もつておりたのだ。

信ぜられない。

信ぜられないかもしれないが

天使であるやうに思つた。

修年はそのなやうな まよひのそとに

私を長くおかなかつた。

一者年とつた一ばんうつくしてい

甚ひをさまして迎れる夢を

とつてくれた。

黒丸 黒丸 黒丸 黒丸

即ち非常な母けんめい母行動を
しんかで、五分間ののちに
少くとも 母等を 母等の 母の
まもの人間としてわかった。

即ち 母人の
非常なあだせ
いつも 母 の前
散歩に 出て
いつも まつさきに 戻る。

~~[illegible]~~

三歳な色白の 金髪美人
美しい おてんば

全くその とほり
年頃らしい 藝術家 [illegible]
一緒に 如何 さぞ 三歳 なグループを 作すでせう。
ウーラリーは おちつかな

まつれく たゞ間さんあるかみ
の重をどう處置する
れ
~~アム~~
宮室な髪のみを
三三4日の頼
いたづらげた

天女の周囲には
なんといふ黒いかみの毛
美しい
君の目のバイロンなら
この女をすらはい
しかるに君は冷せいな つめたい
島口人は
こんなにすぐれな美の人面前で

ザんしゅくな ~~つめたい~~ つれない様子
をしてたる。

校長の地情を私がほんとう
よもと思ったら 笑っただろう

周るには ~~人日好の~~
よ~~く~~ほど頂天を

不す何をかかにある。

私は彼が私のけいかいを解し
相手の心に応ずるやうな
態度 ~~になって~~ をとめるやうにさせる

地をよそうた

次のやうにつづいて

どうでね ライリアム

たったる美しいは スバラシイ美しいと
比かくされるならば
下びた平凡なものに見えはしなかっ。

Venus Venus Venus Venus Venus Venus Venus Venus Venus Venus

banshee banshee banshee

小説であった時分
一年間に二百ポンド稼ぐ収入があるとすいせんされた。

Balzac

この人は 新 好き 弟 に 居つれに
ちがひなかつた
土著のものだつた
ばかりでなく 詩を 即興 に
アイルランド語の
作ることが出来た。
若い時
熱心なる
ことに Carolan の 弟 学 拝者で通は
作曲
たことの最後の
しらべをいくたびも
聞いたことがあった。

ホリバーは 英国
であつたが
英国人 教と
いくたの 兵によって
彼の時代に
イルランドは 支配する少数なる
ものが 者の 支配さるる
多数のもの

お ~~かゝわ~~
ゼして
まいの
人は言った
は言った
ーターレル
つたのではありません
答へたまいは

を見ないけいでっ的な感をもつ
てしまから
そのかんじのけいせきは
ないといふことは附加しなけ
ならぬ
2 実さい俳は俳は
俳の属する階級が有する
美的

Venus

教ぬしに
九しる

おとぎばな

いしする
ga te
この
はのこる

でねいにたづねで

客に ふどう 個を 家に入るかどう
かとたづねで
同論 気に入りますに 家は 無しに
もし 自分が私のお金に対して
何かよきものを持つことが出来る
ならば
彼が 自分に すべてをよく
~~[illegible]~~
彼は 三角
しかも すりへらされたお ~~[illegible]~~
~~[illegible]~~ かくしからぜして
ここに お主人よ 私の
金がある その主人は言った
なんですってと 他人は言った
私は 私に対して ーるーしい
排分べきであったのではありません
かその家は 客へ 私は
ーるーしい

~~他の~~

1つ才に オリバーは 急費生として
大学へ入った

急費生といふものは
食料 授業料はみもはらはずして
宿舎費はごくわづか費ってちかえ
併し小使のしごとをやらねばな
急ぜられししまってるかい
にはをはいたり
特待公費研究生の
旦のかひをやるとか
学校のかんり者の
ビールをついでやったりなぞ
したのであった
やねうらべやでがつくゆくして
月 つらくがきした名

彼の能力より勝れる所
也成して上院　ビルコップ
大陸官ゆなつたり
なつたものを解くあつたのだ。
彼の過　のちどりく
使るきをうちすてしまつた。
彼は学業をおろそかにし
浅けんはロつも成績
おどけのまねをする
くりスのビリにされたり
け　ひどくしかられたり
工学のやなりで所の
ろかれた先年少女に逢ふ
ぶとう會を　舞踏會
さんにん先生に
むつうたれなぞした

みすぼしい　みぢめな　放蕩との生活
貧苦　みすぼ
との間に分れれたる生活
彼のおあしをのこと考えんだ
君年はバチュラーの学位を
終て大学を去った
未亡人　隠居した
みすぼらし
今は ~~[illegible]~~
何かしねばならなかった
彼等は　いやいはでやかの
色の服装する
服装をかささぎの好し
もるきだった
しかり
とらんぷをやったり
ふ正をふいたり　国をくちじさんだり
出雲の話をしたりする
他には

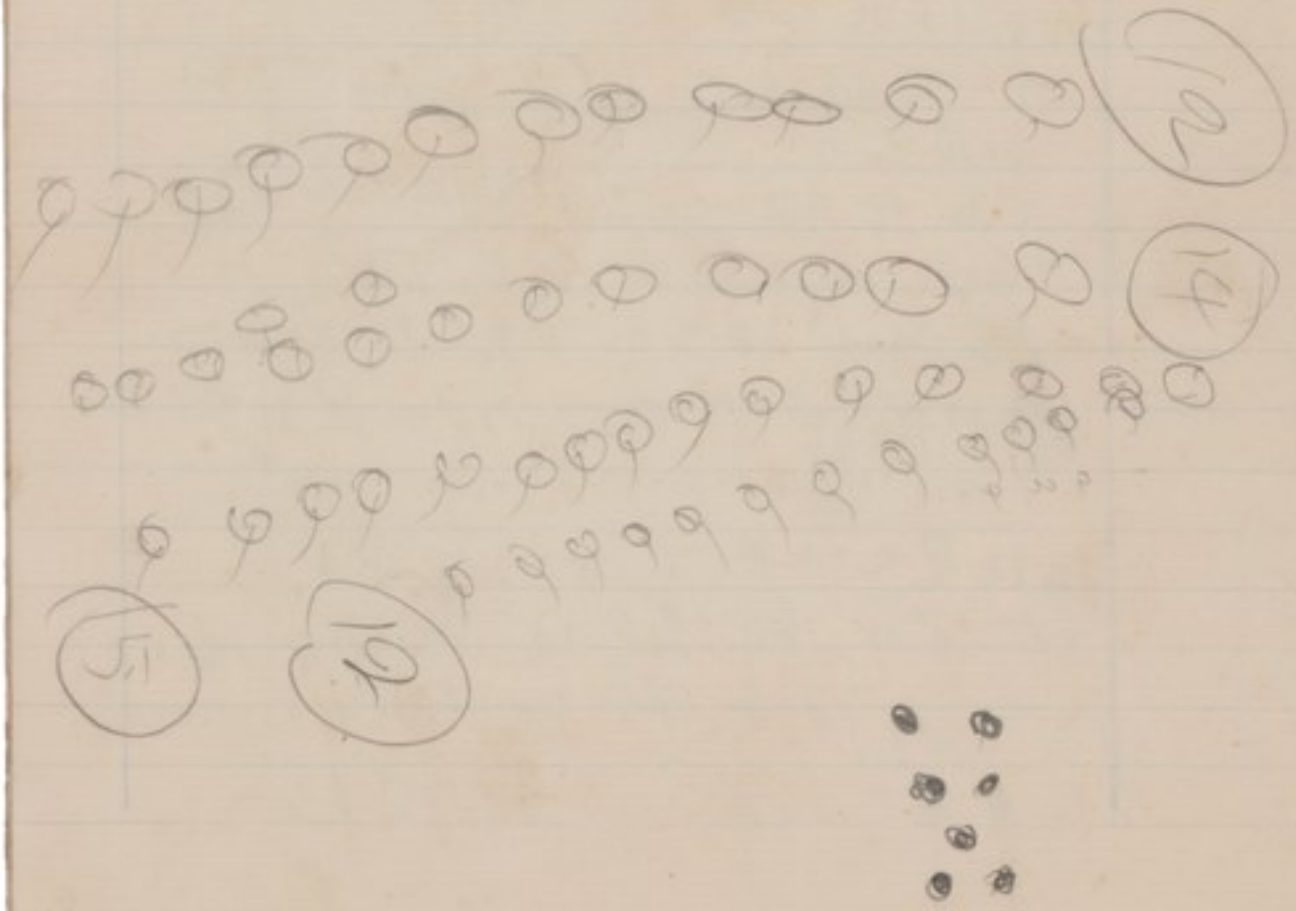
ごと
こえる~~しかくも~~ 赤へなかったらしい。
それからそれと
五天の聯隊をやって見たが
成功しなかった。

僧侶化命式を負けることを
願ひ出た
赤いきもので
ビシコップの官宅から
さっそく追ひ出された。

仏教はそれから ゆうふくな
かでいなる自動
何かけんか
家を
あめりかに移務
よい馬にのって
入れて見て大いに
満足した。

6回問たつと
一るなしの
みしぼらしいろばに乗て
かへつて来た。
きつ道を見つた脇から
遊び車中の中に入つて遊んでる間に
帆風。

ふはいして居た。
一般の観さつは以上にとゞめておく
一この特別の人物について
書きたいと思ふ。



いづくだりれんな向子見ずな
(前)ふざけ だらしのない バカげた色目
はたしかにいつも 最通ななかの
めに こたへるであつた。

ローマキャソリック教の果敢に
ついては 宇教のことから
めいしんか
行はれてるが
ローマ法皇の口々にかやらし
明らか
この早熟な不純なたいどの
根元は ローマ教 口舎の
教育ではないかもしれぬが
そのしつけのうちに見りだされ
るのではないかとうたがつた。
私は見たことを記すのである。
社会の所謂上流社会に属して
居た 注意ぼく教育されて居たが
世界の大多数の 精神的に

親しい交りは学校の規範で
まんじ
一人として こどくかつやくかいなものに
なるときは 友達を終る必要に
には他人に対し 無数を挿ふ
やうに思ふはれるものはありませ
でした。

若すべて　ざりあくといふ
とは全くしらずに 育てられて
るやうに思はれた。
世の中の実じつは
ムジヤキではなくとも 無意を
むちにして 厚しに用ひられて
るもういろの用意は 多数で
あつた。
14の年に達した これらの
けんせん 男をまことにほとんど
どうしたことだろうか

ことによって表はされて居た。

気風は各個人がめいわいの
利益　熱心について及ぼすことに
よって表はされて居
とく外あらゆる他の人の利益べんぎ
に対していやしい　むとんちゃく
なたん
うそをつくことが利益まであると
思はれる時に　大膽にうそをつくことが
出来た
あらゆる生徒たちは　うまく行きそうな
時間はていねいに口をきくこつ
をしぼって居た。

㊟　ていねいさが有利で好くなる
やいなや　非常に　完全なるぎこう
を持つて　たべうに
の冷たんな態度をすることが
大ぺらな　けんかは　ほとんど
起つたことがない
　することは一般に行はれて居た。

多くの有さん陰謀

伯しやく夫人が居りました。
そして又二人の将軍の娘が
七人の大佐の娘が
キャプテンの娘が
これらの婦人たちは
やがて<u>ろりこ</u>となる運命である
若き女性を相並んですはって居た。
一着のもみである、

服装はほとんど皆一様
態度はややさべつあり
一ぱんのきそくに別外が
あったが大多数のものがこの学校に
一種の気風を与へて居た
その気風はあらぶらそしいものであり
そうじ先生に対する つつしみ
を忍んりはなく<u>とうかん</u>に対す

して私が紙ばさみをあけ
そして納金に自然のままに
かかれたるつ様かこなかつ
スケーチを ~~[illegible]~~
見せる間にここを
一べつせしめよ。

私はこれらのすけつちを
学校の二学級の教室で
したのだ。
その教室には若い ~~せとい~~ も。
ここに集 類書いの面ばかりの標本は
あられたる
非常にお、なしの強張の
題目をで伝したのである
この標本は しゆじざつたの
のしゆるいで
口に旋てことなってる

教だんに坐って
ヂスクの上を見たしながら
私眼下に見たのでした。

私がルーターの家族に

日々私は理そうと現実を比較する
新しい世かいを
とう着するとし前に女性の性格に
ついて何を知つてたか
ごくわづかである。
私の考へはどんなものであつたか
ぼこやりした 強い 薄い
キラキラしたりのだつし
女性に接するやうになつた時に
女性は十分 年ごたへのある
もの心といふことがわかり
時には又非常にかたい
そしてしばしば重。
女性のうちには 鉛や鉄の金属が
分れて所々
この世の天使又人間の花につ
て 理想家であり 夢想家を

私は彼を驚かした限つき
多問的のあるたはどうですか

作り気ひをしみして
早いちゃうだんを多ってるのだと断言した
彼を詳しい内に恐らく考へて居たの

であろうかどうかたづねた
丁度その時ベルが鳴った
遊ぎの時間から

文学の命を
習慣になってる
彼をず
こちらよりなから・おかけぎはに
予約な曲をくちずさみなから出て行った

問は私をどぎまぎ上せた
所が私は私の校長が一正当であり
主張である所のものに反する所の
しそう ねがひを私の心のうちに
おこさせようとして居るのを
校長自身には よくわかってる
理由だが私には その理由を
みぬくことが出来なかった。

不正な ~~[illegible]~~ えそのかし 反国抗ざい
の ききめを表はした。つ
ここに 他が次々やうに加へた時には
そうであつた。

いづもれ たくさん財産をやがて
所有国するだろう
紳士的 若い青年は一まはを
かければ。
二人のもののどれかの手なり心なりさいふ
を自分のもの目と存在を発べし

(Foldsmi

うんどうぞう
きくわの
[illegible]純粋としてなぐりつけられ
するに
明気したやらん人たちは
若い時代の出来事を回想したり
又 実ざい 終ら落ちた
うまい反答
これらの[illegible]
ほとんど[illegible]
2十数年後には 作[illegible]
[illegible]を 守すやうに そのと そうぞうされ
たい
今夏のせんく

絶来してる

私は運という場

しわかれ草

今でも同じことが出来

即

当意即妙

ロるに　この悪いやつめが
どこにゆくか
こごとを言ふために

~~名について~~
居間に

ペレー氏は彼がたきまの
赤々ともえてる　ゆかいな
客間に私を案内致して
時節柄ストーブは取りの行かれた
かるである。

①こん分めカヒーを注文した
間もなく彼と私はコーヒー入
れとさとう入とこつの
大きなとうきの

丸いテーブルをこんの
間に置いて
一人づつ英国流り安易
さで座つてゐた

K. Mura

S. Jsushima

Mura

Mura

Mura

S. Jsushima

Mura

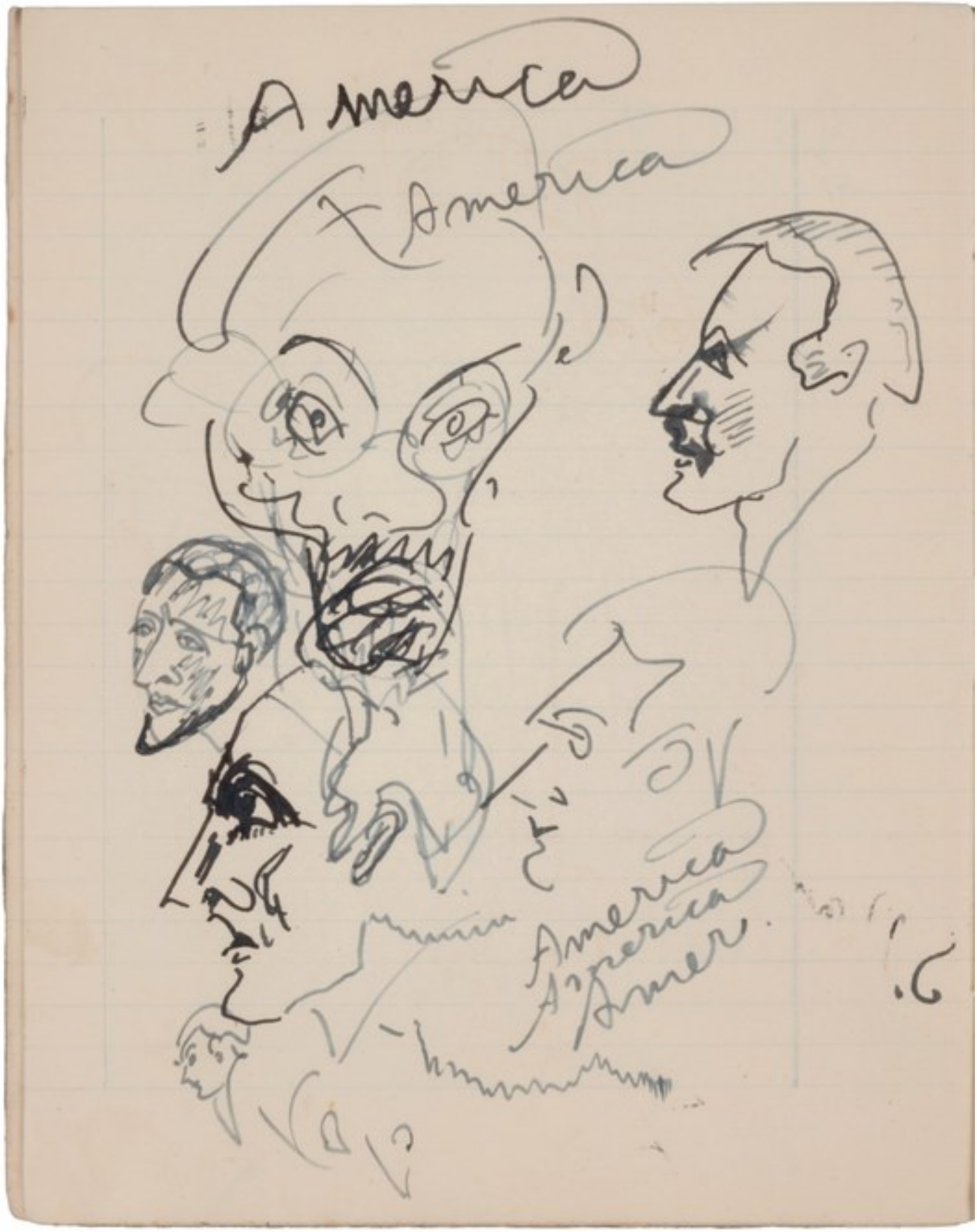
S. Jsushima

S. Jsushima

S. Jsushima

S. Jsushima

For Japanese Boys
Be Brave my friend!
III
George
Sgt Japanese
1.x.
for Japanese
5 8 8


America
America
America
Amer

そしばしば起つてことだから
私は尚一見光榮をになるべとし
なつてゐた。 L

Lal

L 1/3

Labour
Live

solemnity

solemnity

天上の或地上の[illegible]
あらゆる事物に対して
非常に きやみなげに
れいたんに
むとん着なやうな話をして居た
がつたなら
らんぼうなる俗のあとをつけ
ねばならぬ義むの為に

大いに
実さに私は学業・自由を
たしかに そこに見え出そうと
思つて私の部屋に上つて行く
前にひきかへした時に
物けんを持つてる生ひきな
ものとして自分をはいせきし
たいやうな気になつた。

その夜は これ前に

○(田)けうぞう画入

醜悪の姿を みにくい
姿をしてゐた

1まアそうなみよりゆどく
彼れその痕跡をのこした

彼の月長は経つた。

ぶかつこうについてる
子供の間にあってよりぼうの
欲点に対しては やさしい
思ひやりがない。

あはれは ―― にるまする
明矣は ―― 惜とくべつな性質
単純な気分
単純直らなかった もめごとも
しくじりがなかけていこう

此点間に従って尚更高め
られたのであった。
先生や生徒のふつるうの
気に幸になつてゐた

good good ale good good good good

彼の~~のこと~~ 属する階級の
意見~~[illegible]~~ 思惑を友にいいがりて
居ることは ~~ないどころか~~
実さいない

かしかしだ
不きうの ~~選~~ 考えに対して ~~[illegible]~~ 等しいら
ことは かんばいの きらうので居る

住にあつた 時でさへも
こくふくにあらざれば 何ものも口 家を持ふことが出来ぬ
日 つい迫せられた王朝の

と美徳した

クーターマスターの聞いた
みすぼらしい学校から 89つの
年にうつされた
ここの grammar school に
紛きえして 古い語学を
学習した
幸ふくどころではなかつたらしい

彼は今 にあるみごとな

彼にスープ此意も
たべさせなかつたでせう

実ざいへんぱだが丁寧な
ポレーはあたまを振つた
ばかりであつた
そして私が私のせきにつき

異端仮面のきとう

丁ねりに人参の
私に持つて来させた
旦がはこばれてしまはぬさきに

私に最初料理である

二人前をとりのぞいて置いて
はしりれた
かばいそうに もし彼等が

そう私は考へたが
あとになって私は
にぶつた感受性を
純感性はしんけいしつに一致する
ものだ。

東さに私はずるい小さい数年家と
私のせどに帰ると なかば
をへて居るといふことに気がつた。
におくれ居るとりふことは
常規に反することであつた。
大一ぷがそち好かい
料理の始つた のちに
もし・おうんだの助教だつた
ならばピレ人は前で恐らく
叱りつけたと思はれる

私を失望させた

ペレーの定いかつりながら
だんだん
小さい婦人を見てごらん
彼女は小説家かローマン作家
のやうで有いが　諸君が
詩や小説に書かれるやうな
(婦人の小説をよみたいならば
人はこの婦人の性格といふものが
書かれ、しかれ　情操からちつてる
のだと思つてのだが
ここに一つの　お年寄がある
しかも　それが　非常にふつぐつ
のある　そんけいすべきてんけてん
これ無る　ちう象徴の現性
である。　ブライ　ローターよりも
もっとれいさしなtare…は
これ迄なかつた

しなくてとが如きものであった。
ひきわけであった。
私は更に印象を立ちたるために
手をさしのべた手を無へく

~~多分に~~ まともに
彼女をして私に
その生つかじな服飾を
無へさせるつもりで

理智 理智
理智 理智

最後の試験は私に多分に行って
彼女を見出したままにのこして置いた。
即ち彼女はつつしみ深く
しかしてやさしく なりついて

ゲームをたのしんだ
そのけつまつを急がなかつた。
時には やや弱しげに目をきり始めて
彼女に希望を與へると彼女は
するどい いつも てりかへやきれた。
即ち彼女は私に勝つたと思つた
のである。
彼女はわき道へそらせる

ひきかへして来てそれ弱しげ
ではなく 子章を 面倒るのを
私は喜んだのであつた。
もすると彼女はうつもいてしまつた。
どつちとも
遂に ばんさんのしらせにしらせに入つてまた
そうとうけかやうにして 必然
やむなく 縮つたので あり
わかれてしまつた。私に対して
かんしゃ とくて 彼女を 私は とにかく
少さいつまうちに つまうちに むだに

我のとい
なんかすきめ びつこんだ所
見出そうと思って今や
いろいろのしれんをしてなんのであ
った。
このやうに 私を 理解して
はいけない
彼女の傳やうと思ってるのは
貧の努力でけなかった。
その時に 許せば彼女のあこがれ
て所ともの は その故年家の努力
に過ぎなかったのである。
私は今 彼女の 学校の先生と
して 任命されたら
どんな点へ 話して
知りたいと 思ったのであった

るといふことをみとめた。
この目的に
年かつ力をあたへなかつたれども
殺つきがはかすした
あいくのいい子になること
私の頼に絶えず向けられた。
視線はまともに出へられること
はなく眼のすみからこつそりと
その視線をつてみのがさかなつて
随用したと同様に鋭く
其の心情をさがして居るといふ
ことをみとめ切り弘の
とくちやら詞を用意した
其をさがつて居たノジや
結果最後に話を絶せが
性質の悪いふくしやいに
小さき七つか

正直さを信じない
かしそうと思ってることを知ってるんだ。
ほとんど見わけることの出来ぬ
しづかなうつりかはりによって
態度は変った。
心配気な事務的な態度は
なくなってしまった。
隣人らしい態度で
Pele 大妻のことをたづね始めた。
私はわさい質問に答へた。
何せはえの為をなかびかせた
私の気がいさいまかりくねを
たどって行った。
彼は長い間 おはり多く
題を変ったのが
私をとどめることが
としべつの時をなって

幸うんに もよりする完全な力を
(四) 持つてるやうな気がした。
こうこ一つ 最初私の頭の明せきを
げんわくさした金色のもや
大部分なくなつてしまつた。
現実がぼんやりした 現内
現はして居た所の対照に依つて
私は失望した絶望した。
私はたゞ全く教へられる所があつた
私は不平をいふやうないかなる気分
に於て感じなかつた。彼女の
印象らしい言葉を微笑を持つてきいた
くれぐれも有難うございます。
なだらかに行きました
いかがはしい以上の顔つきをした。
(五) 最初の列 すべてがこうつがうと行つてる
熱せさせるやうな所のない。
実さいのまなこは
私と争つてるといふや 光を出した
かくしたいと思ふだけ

外套 ボ バスケット 木の
くぎから ひっぱり下ろして居る

紙屋 ちつじまを実行させてとして
むだであった所の先生のかんがか
い 聲が 明るく 聞える

Bertin

これらの訓ぼうな生徒たちの
上にはくんれんは少しもなかった
何しどうを受けた学校の一つと
考へられて居た。

あなたは最初の授業をやって見れば

⊙ こんな人に気がつかない
かのやうに 落ちついたなぞらかな
言ひ始めた

行為のなにか事情が 不平の
理由を言った
なんにもかくさないでください
打ちあけてください

私はあだかも ―――― にたい
話をしかけて居るやうなそつけない
ありきたりの事で
書き始めよ。
さて 始つた
三人の美人が私をしよつちう
わいくだらん質問と要求しない
言葉を次て私をさまたげた。
それらの質問なり言葉のあるものには
全く

彼女が言ふのに
立ち寄り下さいそして彼女は
女学校に来た時 出て来た
まてのドアを有りたまゝにしといた。
が3人目 トラ目が一ぱい入つて
るが3人目のはまつてる 内部から
見えるやうに セー公園であつた
家具の一部分をなしてたた。
彼女は私にそれ彼女が
しめないうちに 回答を

Brus Brussel 1/3 1/1/33

Ca 夫しさんあるが 紙分思い
かみの毛のみだけてるちぢれ毛を
くりくりする黒く眼の上にふりみだした
非常に熱血のマルーんのくちびる
のやうにあつい唇を開いてそのうちに
まくそろつた 線一線の笑ひ
を笑つて私に見せた。
線は ―― のやうに美しかつた
が同時に 貞潔には見えなかつた。
カローリンは貴族のうまれであつた。
主ふ人のお母 令夫人である
あとで聞いた。
才能に驚かなくなつた。
三人は（たゞちに見てとつたから）
この
主張によつて他の多佐達を
眼色なからしめたと思つてゐた。
五分そこへぬうちに
表はした。カラ鉄のやうなむとん着の
悩あてをつけた
無がんかくないげんをの
瞼甲をおろした。

セつと ~~[illegible]~~ 的な 端正的
な 内 ~~[illegible]~~ 的 顔つきをするのかしらめ
どうして
唇と目が ~~[illegible]~~ 事をたくらんで居る
いふやうに思つた 併し その結果も 不安の
気をのこさなかつた
彦では 内成的だ 十年もたてば
かさかさした 人になる
即ち 彼の顔色は 多くの 本来の 愚作を
なしやうな 持るから
~~[illegible]~~ 明らかに ~~[illegible]~~ 出て居た
私は 少しも 行ひ 物 することなく 眺めたが
尚一 ~~[illegible]~~ そう 行ひ 物 することなく
私の眼に 何かさぬ眼を上げて

そして 消 極的 であつたが
偉 ~~[illegible]~~ 大なる みかに対して
仕 たやすい 敬意を表ふやう
に きたいして居た。

~~[illegible]~~ 一 ~~[illegible]~~ 頭に 於て
自由な たいどで 言つた。
始めには なんか やさしいものを

その顔は思えつ いきいきとを
顔色は 血色のいい
眼にはおどけたやうなやうすが

見えて居る

成 ゆくして居たが
のうす
新に関しては おぼやに
表はれて 頭は高橋な色
血色の悪い オリーブ色の
顔色をしてる
[illegible] 非常に れんせいな
顔がたちといふ事が
多くの人々が そのしよ美の一致を
美の完成として見なして

サイフクビ
9

私が言ふ美人は
そこに戻るもっとも女らしい飾つき足してる
人のに合まれて居た。

ここでのべた方がよかろう。
せが高い立ぱな姿をして居た。
美人でおらんだの画かきが
彩色かんちはベルギーのまりなる
影がたつたつた
おらんだの道で、ウーラリーの絵に
にてる多くのまりあの正を見たことがある。

曲線として丸々 Cp-ついかなる
情熱をその青白い清らかな
及ぶの一様さを線 赤みによって

見だすことが

細さの オール 中方で丈夫だ
物びでない

おながが なちきる位 おかしい。
屋くの 者こ才だ。

さて 弓ゆたが下された。
そして 人の頭が又
私はすでに三人の ささやきてを
目につけて居た。そこで私は
ちゆうちよすることなく
その一時時の 以上 ゆう又 思はれた
時 仮象を 激現した。
仮象の けいそつ なわかが のことばか
か 私に与へて 呉れたるは
いうじるしたものだ。
私の 恐れて居た 考へは 思い
~~私の恐れて居~~ あまのやうな
ゆるやかに むす 若い者
はとんど天使のやうなものでな
ありあしまいか
けいはくな おしやべり けいそつな
ささや里 葉はすでに 幾分 私のんから

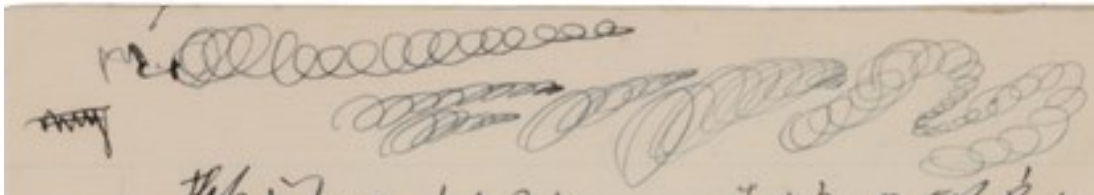
先のやうな解釈
けんこうとさう思はれる充分だいかくのいい物、
たくさんあるやうに思はれた
私は 素愚者のやうに
この最初の一つ一つにたゝることが
出来なかつた。げんわくして狭間に
ある
ささやいた。

習慣帖 おれしなさい。
ベレーの学校で[illegible]の学生
たちに以上の[illegible]とく事を出せとは
以上のやうにはいはなかつた。
つく三の子をおれる事が
した。
れんしうゆちををかし気に
ちやつとかくしたあげたふたの
かげではそれはベチャベチャささやく
のを聞いた。

on on on on on on on
on on on on on on on

気づいている大人がすでに[illegible]
来て どこれも見えなかつたといふことを
観察し、女の~~顔ち先生~~ (女の先生)
私の[illegible]と全く同じ[illegible]
も占めて居た ただ一人 [illegible] 私を
かんしまして居た
彼女はやや暗い所に居たから
私の方から見ては彼女のやせた
骨ばつた蒼白い顔つきをしてゐるといふことを
見ることが出来るのみだつた
坐つてる彼女の態度は
ぼんやりしたと[illegible]の態度を
とつて居た、私の下宿屋の[illegible]
[illegible]生徒は 丁度今の
明るい [illegible] 照らされて
(宿の上に) on
居つて前の先生よりはもつと明るい
と見えつつ居た.
この先生のように 14 15 16
[illegible] 私には[illegible]
(第20. [illegible]若い婦人を
[illegible] かみの[illegible]
[illegible]

some some some
some some
some some

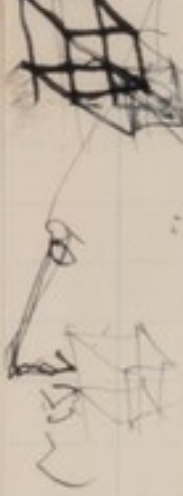


散がんのうしろに　むかうの設定と
へだて　平面のしきりにくつついて
一つの大きな黒くぬつた　ワニつをひいた
黒板がありました。
めつ大いチャラクが、私のじゆげうに
分をて生ずるかもしれぬ　言葉のかくことに
まつて明らかにするためにつくえの上に
置いてすつた。
その企だてた目的を果した時に
その記号が消すことが出来る為に
チャラクのかたはうにしめつたかいめん
が
なつてから眼前のベレチに一びつ
を無るよやうが出来た
一回度まいぐあひにしめつて居るといふ
ことを確かめるために　毎編にふれてから
静かに見上げ　私の周囲をゆつくりながめる
くらい冷静になつた。

るかどうかをたしかめる
やうでした。私は彼女が私を
目制のかなり態度にあるといふ
ように判断をしたやうに思ふ。
なぜか
すぐ教室のとびらを
開いた。起立のがサがサいふ
音が我々の一室を迎へた。
私は右手も左手も眺めず
二列のベンチと腰掛の道を
まつすぐに歩いて行つた。
教室の一區域を見下すやうに
一歩の高さの教だんにのせてある
からの　はなれたつくるをまめた。
もう一つの區域は同じやうに
高い所に居る女の先生のがんとく
のもとに居つた。

私はけんけんで知ってるやうに
言ってることは全く正しくあった。
自分としては したがふのみであった
我々は今や共まって進み入れて
大きな音に目前にひろまに
終って居た
このうちに食事やとだなや
二つのランプがある 長い
食事があるといふことをまして居た
だれも居らかった。
正面の大きなが3人寄は
向ふ例には
うたがひもなく 教室に通じてる
一対の大きな折戸をまして居た。
ロイター夫人は側面に その眼を向けて
私を見た 多分私の 異院に
寄日されてる 強 落ちかいて

であつたらう
~~[illegible]~~ 不安と好奇が眼の
うちにあらはれた 即ち
げんしゆく
あいさつはていねいだつたが
きちやうめん 平凡 私の 洋に
直ちに しめつた 冷い 外れ
をかけた
主人が 現はれて 来たので
しもべが ひつかつした
相ならんで
月 一学級に 於て やつて
しれでせう
[illegible] 諸方は 年始めの
一 有いい 方法で あらう 教授
といふのは 外国 諸の 一ばん
やさしい やりかただから
先生は 自分 少々 不安に
感ずる



玄関

となりの家の前に立った。

間もなく

きれいな黄色の大理石まがひの

壁のあるここちのよい

したがった。

だんをおりて まはって

ローカのやうな所に出た。

わきのドアがあいて

たってる~~やう~~と共に上品な

私は真ひるの光で彼女の服装を見ることが出来た。こぎれいなかんたんなエスリンのがらこが彼女のしまった丸い姿にぴったりとよく似合って居た。

美しい小さいカラー、レースの袖口

清潔なバリー式のあみ上部が

その首 手くび 足を全くひきたいせました。

偶し 忍に私と出あった時に

彼女の頭に ぜんしゆくな顔

起されそうであるといふことを考へると
記憶されしきうな心持ちが押けいに作用した
(生活期日の出来) 無味かんそう の 単調なことが
私のこれまでのなやみであつたのは

ときどき 無分ふんげきを恐らせる
場合でなければ
なんら 起きなかつた。

急にわかれ出来 [illegible]を大まんに
歩いて行つた時に 彼は私のあとから
彼とく有の気ひ方をあびせかけた
つるしス 設備者のやうな 嘲笑的な
いやらしい
ひにきだつた

三陽芝園

翌日午前はムシウベレー学校に旅には
非常にゆるやかに過ぎて行く
とちりの頃へ再び行って たのたのしい
ふん互共の間に　する為に
午後が来ればいいと思って
その楽しい①周囲といふのは私にとって
楽しいやうに おもはれたからである
件けんの明るん　こうゆうやうに
して明間がかかつた
2時を打つ　サンタンドルの奉院の
重々しい鐘が私が待つて居た時間を
知った。下ってせまいうらのかいだんの下のところでベレー氏にあった。

たびたび深ちやうにせま

やらうとする資格には
ならんですよ for honour
どんなまけん

深い印象にまさこまれないやうに
とう。　たびそれだけだ

——のついて居る

りっぱな
~~ぶ~~り合ひ住だった。

すべて単純といふ ~~[illegible]~~ 雄[illegible]
そして雄けんなものであった。

彼はその重みある
才候的な文を潜力強き聲として
正シク治気あるごせいもて
これを
その潜勢及びその聲の
効果は彼のかうだをゆうじ
かすことや彼ノ雄べんの
とうとうたる彼の左住新
がたいがいぜんその
苦しいいきづかい大がい
おしまいには起つてまる
などにのよって
ぜんぜんるるよりはむろまさるの
であった。

13 彼のペンは今は ふってをとり
白は治動的だった。
直接には一緒し
お上居ばせる影は全くたじなき
ものであった。
彼の對治の最高級のものであった。彼は強いじやうしき
びん治はしきべつ力きち、二つはい
文学及人生の偉大なる智しきを有し、珍奇のものなれたり
かずかずなく知ってたて
文体に関しては
そるる　ろびろーのものとも
よくつり合ひのとれた分などに
くみたてが正しいとのつあった。
彼が
仰々しい三体一致などはなかった

私はごふ人 私の口のとくけんである
私はいつも要求します。
彼は一よと笑って
人のよささうに
なしたあらゆることに鋭れな
一種のおちつきを持って
そのお　　は私のきちをおちつけ
気に入って
少しともその晩には考へたのでした。
ゴラリヒとは再び町に出た時
に非常にゆくわいな所のやうに思
はれた ~~[illegible]~~ 四月の夜に
その事件のあるにして同上的
な性質 ~~[illegible]~~ その時にもう私に
切って居るかと思はれました
人といふものは これなに
感動されやすいものである。
即ち少しとも人間といふもの
が私がその当時あつた
やうな人間である。

たのしんで居ました こと更にたそ
れれかい そのりんくわくを少しく
やはらかにした今に於てはことされ
そうでもた。そして私はその明暗かい
それと合うぬうちしらがうの間に
於て 彼女のひたいかい高い
と共に 間とそうぞうすることが出来
しりよ 分別のりんくわくに
配てはつきりしてると共に美いい
性格が少しほの見えてるやうに
想像することが出来る。
その明にはことに解にたのしむ
私は宣ち上っておいきまするに
外国の冒険の作品に多数である
ことを ことさらに手を出した
全く英国式の中である が親切に
私に握手して笑いた

もっと
こドワードは こんぼうな
しつっこい 態度を表はした思はれ
るがルーター じゃうよりーそう
態
いちいちと理由をのべいちいち
の説明をしました。結局自分は
全く私よくのない 母気前のよい 貴人である
とさへ思はれる人であるといふ
ことをうまくますことを
ゆち方等はおすんが。
私はすべてのことに同意を
してしまった時 その以上の 長
かなかったからである。私は えち
上らねばなりませんでした。
もう少しとどまって居たかったでせう
何をならば私の小さい 日あしか
印度の外 どこへ帰へらねば
ならなかった。ゆち
そして私は ルーター嬢を眺めて

とりかこまれた~~くるき~~地面を眺めた。
中央に古いくぬものの木に依つて
両側に ~~中~~ 牛を入れた細長い地面だ!
長い大して幅の広くない
そこにはひばしがあった。ばらである
或は花だん或ははるかに向きの側に
全て きんぐさりであるとか あかしやの
こんもりとして居る森の花園であるしばきが
あった。それは私には非常にここちの
よいものであった。~~なぜ~~私は口はと
といふものを長い間たつてるから
所で私の眼がんそがれたのはんーら——
[illegible]の花そのばかりではありませんでした。
手入れのよくいき[illegible]とどに花だん
現在時に私の現線に
もどしました そして又私は急にはその
現線をそらさなかった

殺して 婦女が待つてる
いふ通つてん
又 子程と婦女はいつた
私はもえつがと思ひました。
君 あなた私をして この家を手段さしめ
ないのは この座であります
しかうざれば 私は おそらく それ以来
もつと以前に 少つと大きい 屋しきにひつこしを
したと思はれます。ごはりかの 回り
座もうともに ひつこしことは出来ない。
その時の 他の所では 出来ないでせう
私ひる 賛同しました
婦女はたちよけなかう申しまし
た ごらんなさらないのだ
いつとまし 窓ぎはにいらつしてずし
明もるためん
婦女のあとをついて行きました。
のりだしやうに 宿命に これ迄 私の
知らなかつた所である

つきやかものでありましたでせう。
この部屋はじぶんがしい思てる
れ寝台置とがありました私中その
部屋には私のカーテンには私い
まどがあつた。カーテンがひひてなか
つたので大きなしまとほつたが外院を
回して庭園を更に一べつせしめたの
であつた。その窓の周囲には
つたの葉とえんれから又つるが
えのまはりにからんで居つた。
さんではありませんかとうしろで聞かれた
思はず驚いてふり返つた。

美しい快い観察室にぼりつとう
大きい部屋につかつかなつた
私のそばに立つたのはルーターしたった
私はそしざに元にかへつた冷静さで
おじぎをしてしまつた時に
中々どを失ふことがなかつたから
私はおじぎをしてしまつてから心地まげな
様子寝せがにはをするつてるので
まさつてる点に私て自分をもちめたの
でした

じきの
鏡のストーブ
金めつきの鳥のかかってるもの
喫う台の回とのめつきのしてある。
とけや其の他の装飾品
大きな光り輝いてる垂飾えんから
中央からさがってる
鏡えんかす

渦巻接近 ヒスフンのカーテン
美しい目録を完全して居る。

部屋全体のやうすは
明らかでかがやいて居ました。
若し衣し掛かれてるれして
今日分がとはされてるへやん
更に心地よげにしつらへて居る
もう一つの更に大きい表はして居る
前の大きは二段の折戸がいつ
両面の目にあるいあんを無くなのつた
ならばソノ部屋　紙分

私はまのなく 人にいれた
すぐべんを引いたかると又ずきんが開
けられそしてその内部に里とはとの
交互になって居る大理石がもきつめてる
所下が表れた
壁は同じやうに大理石まがひにぬって
あった。一番むやうのが西ろ
が開いた 花とうして私はくれち
こ花だんを見ました。あたたかい春の夕
べの日を受けて心地よげに見た。
所は日月のまちがであったからである。
日本から私のこと花ぞのの最初
のべのけんだった。所で私はしばらく
長らく眺めて居る隙間をおたずして
すぐさまそよ門番がお嫌さんはまたくに
ならっしゃますかに関係私の間にむらし
しゃいます終って その部屋のか
さねがを左手に開きそして私を案内
して その身を私のうしろにとざした。
私は非常によく見パンキの塗ってある
そしてつやつやとひろまのうちに
私は入ったのであった。そのひろまには
はい布でおなれてるひてを

いばあさんである何とならば
ルーター夫人のむすめだから
一定らく四十才しん上であらう。
そうでなくとも即ち彼女が
若く美しくあつても
どんなきものをしても美しく
なることが云はぬ
ふだんぎのまゝで
すがたが上にのつてもりしやう
旨
ざつと急がしくわき見しなかつ
ら出発しました
まいはやさたりんかくのととのはぬ
即ち大きな口角いひたいに
口くぼんだいんきな目がある
なるやかさや みりゆを熱いて居る
やせた ―――― の顔を見た、
併しどことなく若い所がもつ
た若るしさではなかつた
から絵るやうな対象でもなく
美の白るでもありませんでした

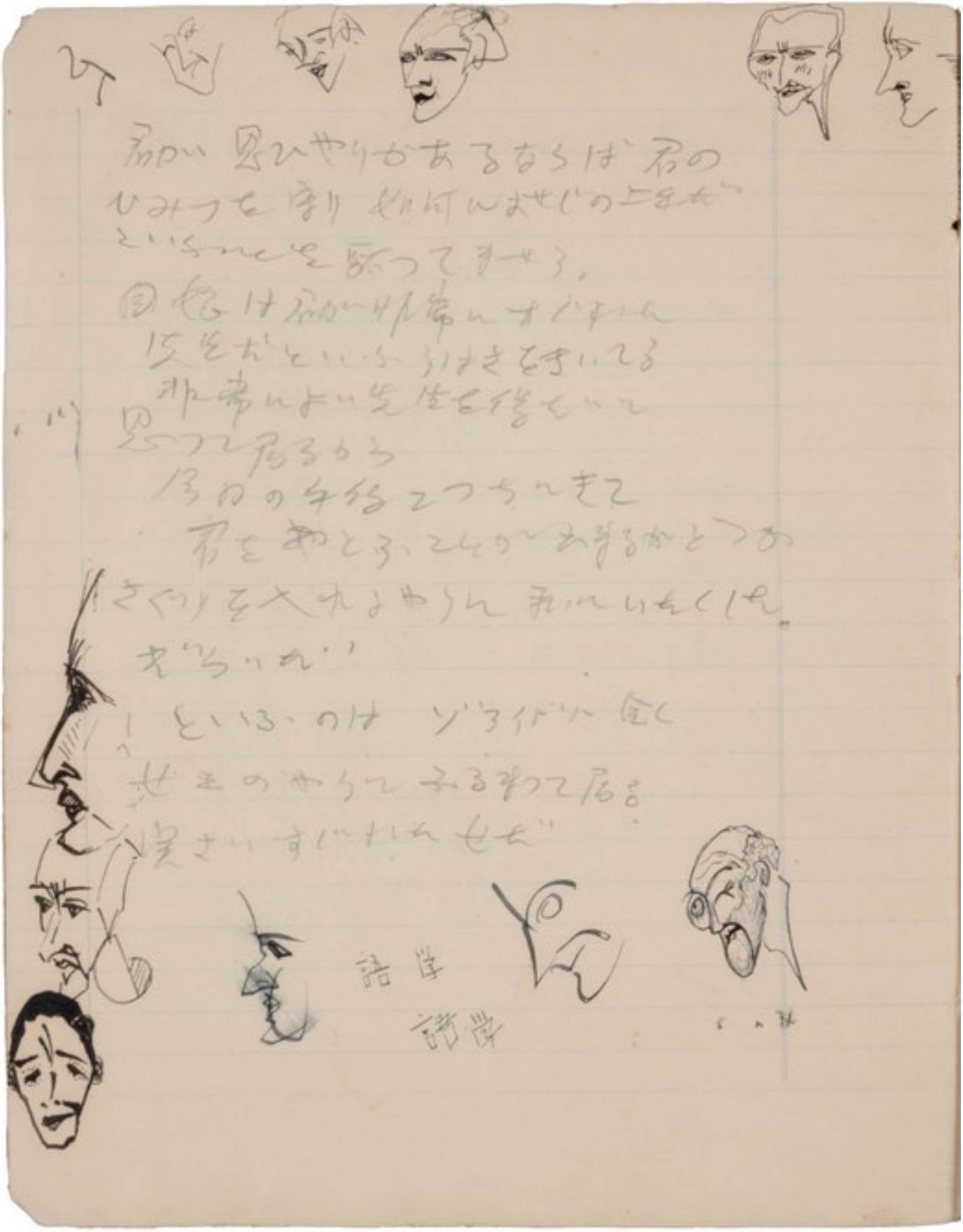
ベンらべしは　　夫人によって
なされた申し出に勿論 対称するそれかつ
ん平なかった。かやうな（解分のしごとを
しゆうだてす思うといか 評価が
もしごとが申し出されたならば）
彼が私をやとった川の條件
綱目をなして居たから
それ故に 翌日のうちに 日曜に
毎週 毎日 日の午後にて ——
ーーーーの家族で 日曜に 接着し
しまいにとにふことが取りきめられた。
バンにすった時私はルの問題について
相談する為に於かうとしかんがをしました
私は毎日 数分 ひまなし 接着
　　沙間するいとまがなかった。
乃ぞ きをしてるかそ 彼は
部屋をもる前に 自前がきめきに
眼鏡と あだんかと 足っやうかに
ついて 断的 認識しました。
が 遂に ひだぼ ねけだといふことに
決しました。私は 見たがひも
なし 彼女は 風かたじ 子に

吉祥は この場合に 問題について の
ごと表面の感情は満足の感情
だった 先づ第一 北海の 新緑で
じゅけうするのは 変化だえ此から
若い 恋たちを 願うといふことは
面白いしごとだらう 少くとも
世学場に入れて 貰ふといふ
ことは私の 生涯に 於ては 全く
新しい 出来事でせう。 なを 引っつけた
窓を 明しめるから
とうとう 例の 神秘的な 花園を
世せう 明めることが出来よう
そうして 花園に 遊んでる
世学生ならびに eden を 明
めるにとが出来るやうに なる

成子様、　私は相手をさべきりました
といふのはこうゆうやうなおしゃべりが
紀由な言い過すが非常に私を
なやましはめた。私はやし一氏に
相談して君の希望通りにとり
きめられなでせう
感謝してる。
おや君はそう行ってしまふんですか
もう少しめし上りませんか
やきりんで　もう一ぱいコーヒ
その人やから歸りました
部屋に　心中に於てひつくり
返して考へて見る　その事件は
全く妙な事件のやうに思はれ妙な
て分かなされるや非思はれる　といふ
のは例の二人の姿さんは
こみ入つてゐる　自分には分らぬ
失敗をおばあさんはやつたのね

世の中は私の子供目分から非常に
かはって居る。相手が音へた
今では若いものはあなたの息子さんや
一のやうにそんな古式な頭を持って居る
もとの治にもちろんどると
マダム ペレーが話すであらう。
私の娘の家族に就て
貴方が　　といふ問題と
ペレー夫人に息子に治してもらひた
いと思ってる その息子に君に
治して見たい
君に私のうちへやって来て貰ひ
たいと思って居る娘に圓舎を
れめて貰ひたいそしてこの問題を
最初の ペレー氏その人から
君がきいたかのやうに切り
出して貰ひたい。
その場合に決して私の名前
を言はないやうにして貰ひたい。
私は決して私はゾライドを
恐りせたくないからだ。

ゾライドは 注意ぶかい 大悔だ。
だから 前進をするならば 必ず先づ 自分の
立ち場しらべる。
若し娘が私が君に娘の意向をすでに
うちあけてしまったといふことを知る
ならば娘はふうかばないと思ふ。
彼女は それだけの程度迄 やれと
私に命令をしなかったから
自分のやりかたは
私は君にひみつを うちあけることに
絶て決して 異障害はない だらうと思ふ。
まだ君ぺしーも同じやうな意見だった。
併し娘に 意らなかるやうに注意して
君は 私たちのいづもをも
私の考へる所では 私の娘のこと
をいふのだ。
娘は 非常に意ぶかいくんに
かげぐちをきしのは 非常に面ないもの
であるといふことを
私の息子 そのままである。


君が思ひやりがあるならば君の
ひみつを割り如何にせじの上手だ
といふことを取ってませう。
◎娘は君が非常にすぐれた
先生だといふうはさをきいてる
非常によい先生を得たいと
思って居るから
今日の午後二つちにきて
君をあとふことが出来るかどうか
さぐりを入れるやうに私にいたくした。
だらいだ
といふのは ゾライドに全く
世主のやうにふるまって居る
笑さいすぐれた女だ
語学
語学

私の友達の
恋るさんにしてると同様に
それだけですよ
君は本当が結婚室で授業してると
思ひました。
その考が彼女の恋像を打開に
くすぐ回つたかのやうに
奥さんは笑ふのがわかつてる
もし貴方が事業をなさらなくても
事業が出来ないからではないと思ふ
急にハンカチを取りだしてフランス風の
上品さをなつておじぎをしながら
鼻の先をあをぎました
彼女がベルギー人であつて
フランス人　笑つて居た
危険なことではないかと思ふ
しかし　そのていどに
能怖れる

私の参會の際をこふたのは

若し君が賢明であるならば
ぽんすを方よつぴり　わし上つて下さい。
彼せの完全によれば
正さんの後に非常においしい
ためになるのみそのである。
私はおじきをしたが更にじんつ
しました。
つづけて言ひますに
おでんかに一すすりしつてから
私の妃が私に いたくした 美化の
仕事の重大さを深く感じる
のである。神戸知の近り降り
の学校を支配してるのは
私の妃ですよ。
ア、私は君がこてゆつしや
ると思つたえのしゆん間に
えい学校は ——ルーターの
頭で　と呼ばれて
居るといふことを思ひました。
私にして、どういたしました。

とを

即ち教えたんのたべものをたくらげて
からうしの
すすりいかがですかと足をはじ
じたいした。そうではなかった。二人の
そのな強い一ぱいのウイスキー
ありまぜてストーブの　と思われるものを
近くの台の上にそれをのせ
えのいんぎなもののもけ
いすを引きませてどうやうにせよと
私に申した。そこで私はそれにしたがって
二人のまんまん中に布を占めてから
次のやうにペレー夫人、夫人に話し
かけられた。

さて用件の話をしましたら。
しゃくすした。解決して見ると次の
意味であった。即ち彼女は友達の
まだむルーターに重大な
切り出される機會を得るためであった。

客行

難度について力がない、放送をゆるして居る。ワイター夫人のおどけん顔は彼女の口のおきては例外ではない。證明するものであった。

左りの眼ではまばたきして
ながら眼を使へ、そして其の
右の眼は半分しまって行く。
非常に物なものだと思った。

私を食事を頁にして見れと
招待した新聞解説として
そこむだな試をしてから それを
全く思ひ切ってしまった。

そして遅くべからざる所の
まいにして思いて私は至って笑う
笑う 三人カメ たくさんい その中の
来るコーヒーなどの 是非を解しやう
と勢のためからな まんたべてとかも
なかなか仲々小食ではなかった。

洋島侍治 Sanshima

居ハ　いやしい下品な ~~ブラシス~~ ブラシスの ~~[illegible]~~
屋間でれづねた。
ブ　どんなにもるきですか
~~[illegible]~~ に来て
私はだとへばベレー氏の純粋な巴里式
な完着ベルギー式のかどいかかつた完着との
差を充分区別すてきか出来た。
私の親所ノ人のやうなこんな下品な
みんしい老婆がどうして七学校の
校長さんになれかしらと
なぜかどうな 大学校は非常なしやうさんなことばで
うけさされるのを聞いて居た
実際びつくりされるやうな所があった。
ロイター婦人にこつかりしるマジメナ
ゲンカクな七学校の校長といふよりも
非常に おどけた食び道等のおばあさんの
老夫の妻やどやの　見える
一時に大阪のせまうくともベルギーの
おばあさんは全く来るめ年をめして
居らつしやる英国の
はあさん迄が不和等として
ちうちよするやうな

~~Ito Sensei Yamada Sama~~
~~Ito Sensei~~
~~Ito Sensei Yamada Sama~~
~~Ito Sensei Yamada Sama~~
~~Ya Tanaka Sama~~
~~Kanazawa~~

〇〇〇

葉子も ジコンソンにつきしたかつた。
とりあはせが悪いやうに見えたかもしれん
といふのは早くへんけんをいだいて居れ
強い 主
オロカナ ウヌボレツイシやらハ
ハヒの常にブンダンしてるやうに
うるさく思はて
たえず常同した。
赤んぼと塔たとぢまこもうれたら
あなたどうしますか。
絶対葉酒家
実さい 月ひつきりなしのつんだくれ
といつてもいい 位解のだつた

かやうな両人の間に
寛全な調べ
恐ってかんしやく玉はわつ
恐ってゐる Bowell が本気に恐れこと言つた。
本気になって恐ってるやうなことが
からをば

すぐに仲なはれた

二十年間弟子はそのしやうを
保持し その先生は その間その
弟子を叱り出し失し又変した
彼の奴ふつうは大えうはなれて
すまいして居た。エデンバルの
[illegible]に開業をしてる。
そして[illegible]ロンドンに出かれ

て来るばかり
ジョンソンを注意して頼さつし
ジョンソンが言った

おぼえ書きを大きなの一とぶつ

存在してから間もなく

よりも 名よんとつて 理 軽ではないが
幸福にとつては 重大な関係を
むすんだのだ
真口中で最も 大 かねもちの
げんぜんな 務巻せられた げんかな
主義 寛大な精神
かしこいしんせつなあけうのいい
ぶえんりょな若い ふ人 即ち
(常に多く(所)言ふ(所)はすつかり正しいものでない所ことを) 併し 何をいい
何をなえうともいつも きもちがい
たちの婦人を悪んして居た

Professor

Professor

Professor

Professor

Sir Ku-no.

The Hirosaki
High School
L. 1. 1.
S. Tsushima

今泉本店特製